

# 大仙市 花火産業構想

## 第I期

『日本の花火』の持続的発展と地域経済の活性化に向けて

花火産業構想策定プロジェクト会議

平成26年3月



## ■ ■ はじめに

---

日本全体が人口減少局面を迎え、経済規模の縮小や地域間競争の進行が懸念される中、そして地域経済や雇用情勢が依然として厳しい状況にある今、地域活力の源泉となる産業の育成・振興、都市としての個性や魅力づくりがこれまで以上に求められております。

私ども大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会は、こうした課題を解決するひとつの“解”として、この程、三者協働による『花火産業構想』を策定し、これに基づく取り組みをスタートいたしました。

『花火産業構想』は、本市が誇る日本最高峰の花火競技大会、全国花火競技大会「大曲の花火」が有するブランド力を最大限活かし、製造業や観光、商業、農業、文化、教育など様々な分野にまたがる発展軸を形成して地域を元気にしようとするこれまでにない新たな概念の産業振興方策を示すものであります。

第一期目となる本構想では、花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進や、花火の振興を支える人・環境づくりの推進、本市の強み・特色である「花火」を活かした内発型産業の育成、「大曲の花火」ブランドの戦略的活用の4つの基本方針に基づく施策・事業を展開し、喫緊の課題である地域経済の活性化を目指すこととしています。また、本構想の根幹を成す「大曲の花火」を支えていただいている花火師の方々をはじめ、花火に関係するすべての方々に感謝の意を込めながら引き続きその振興に努めるとともに、本構想の推進により『日本の花火』の持続的発展にも微力ながら寄与できればと思っております。

大仙市は、この平成26年度で誕生から10周年を迎えます。また「大曲の花火」が発祥である創造花火が生まれて50周年の記念の年でもあります。

この大きな節目の年に「大曲の花火」を起点とした新たな取り組みがスタートすることは誠に意義深く、新たなステージに向けた幕開けにふさわしい取り組みであると思っております。

本構想が、観る人全てに大きな感動と夢を与える『花火』の如く、私たちの住む地域のみならず、東北、そして日本全体に元気を届けられるような取り組みとなりますよう、関係各位との連携・協働のもと、果敢にチャレンジしてまいりたいと存じますので、皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

大仙市長 栗林次美

大曲商工会議所会頭 佐々木繁治

大仙市商工会会長 高貝芳彦

## 目次

---

第1章 現状と課題	3
1 大仙市と花火を取り巻く現状	
2 ニーズ等に関する把握・分析	
3 上位計画・関連計画等	
4 課題の整理	
第2章 基本的な方針	26
1 基本コンセプト及び基本方針	
2 目標及び構想期間	
第3章 想定される施策・事業	29
1 施策の必要性	
2 想定される事業	
3 施策・事業の推進にあたっての留意点	
第4章 推進体制	40
1 構想の策定体制	
2 構想の推進体制	
3 フォローアップ体制	
参考資料	45
指標目標について（参考推計）	



# 第1章 現状と課題

## 1 大仙市と花火を取り巻く現状

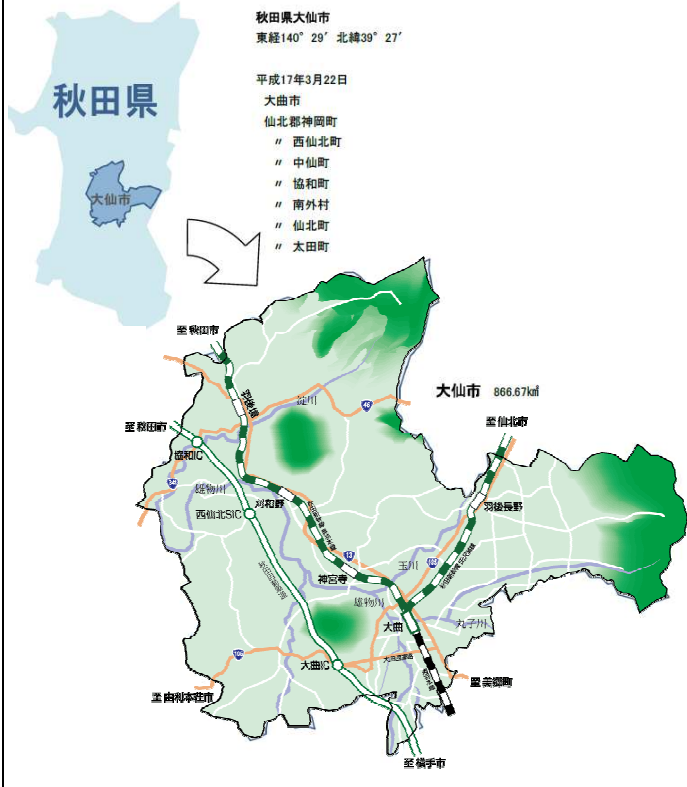
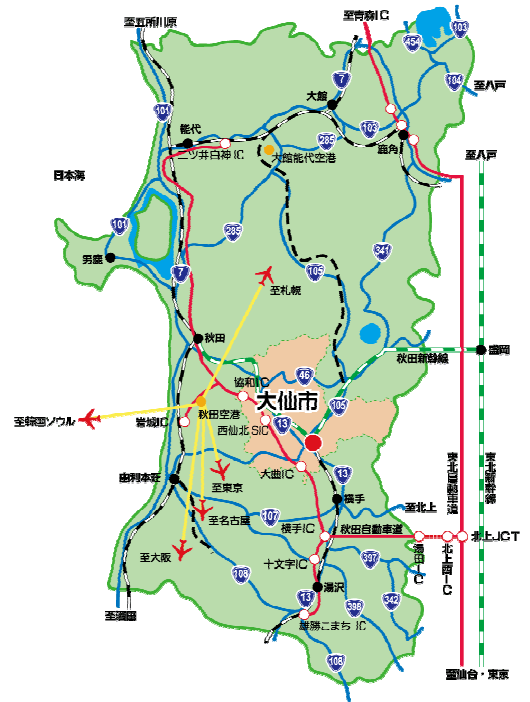
### (1) 大仙市の沿革と概要

本市は、北緯 39 度 27 分、東経 140 度 29 分、秋田県の内陸南部に位置し、東に奥羽山脈、西に出羽（笹森）丘陵が縦走、その間を流れる雄物川とその支流である玉川に沿った農村地帯が四季折々に美しい表情を見せる自然豊かな田園都市である。

秋田新幹線や秋田自動車道等の高速交通体系が整備され、秋田空港も至近にあるなど、多彩な交流が可能な立地となっており、県南の交通の要衝となっている。

面積は 866.67k m<sup>2</sup>で、東西約 44km、南北約 40km と広大であり、その土地利用については、平成 24 年において、山林 31.1%、田畑 24.4%、宅地 2.9%、その他 41.6%となっており、県内有数の穀倉地帯となっている。

気候は、内陸型を示し、平成 24 年では年間平均気温 11.5℃、年最高気温 36.1℃、年最低気温-11.1℃、年間降水量が 961mm で、冬季は日本海沿岸地域と比較し気温が低く、夏季においては比較的高温多湿となっている。また、最大積雪深 211cm、累計降雪量 890cm と県内でも豪雪地帯に属する積雪寒冷地であり、特にここ 4 年は連続して大雪となっている。



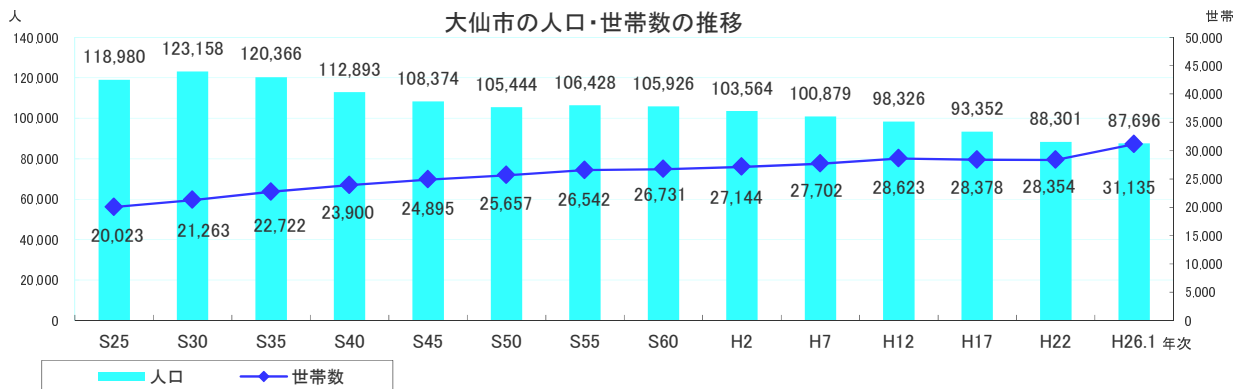
本市は、地方分権や少子高齢化など急激な社会情勢の変化、行政需要の多様化・高度化などを背景に、自治体としての基盤強化が必要となったことを踏まえ、平成 17 年 3 月 22 日に大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の 8 市町村が合併して誕生した。

平成 26 年度は、本市が誕生してから 10 周年を迎える年にあたっており、これを新市の基礎固めの時期と捉え、これに続く大仙市発展に向けた次なるステージに歩みを進めるための所要の取り組みを推進することとしている。

## (2) 人口動態

### (2) - 1 人口推移

本市の人口は 87,696 人（平成 26 年 1 月末住民基本台帳）となっている。昭和の大合併時期の昭和 30 年と比較すると約 7 割と大幅な減少となっており、今後も減少が続くものと見込まれている。一方、世帯数は 31,135 世帯（平成 26 年 1 月末住民基本台帳）となっており、昭和 30 年と比較すると約 1.4 倍と増加している。



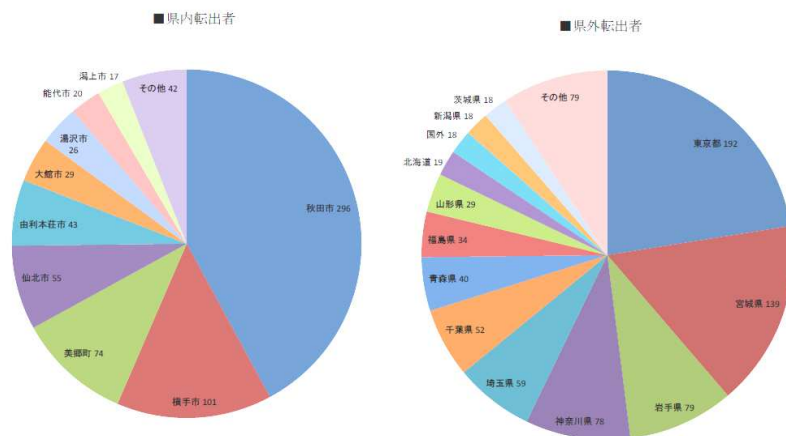
平成 17 年以前の数値は合併前の市町村の人口・世帯数の合計

資料：国勢調査、住民基本台帳

人口減少に関しては、自然減が大きなウェイトを占めているが、社会動態においても転出が転入を上回る状況が続いており、進学や就職による転出が主な理由となっている。

(単位：人)

年次	自然動態			社会動態			実増減 A+B
	出生	死亡	自然増減A	転入	転出	社会増減B	
16	604	1,141	△ 537	2,264	2,531	△ 267	△ 804
17	603	1,209	△ 606	1,933	2,384	△ 451	△ 1,057
18	654	1,200	△ 546	1,870	2,310	△ 440	△ 986
19	585	1,177	△ 592	2,056	2,362	△ 306	△ 898
20	552	1,266	△ 714	1,972	2,271	△ 299	△ 1,013
21	587	1,270	△ 683	1,811	1,988	△ 177	△ 860
22	491	1,310	△ 819	1,761	1,983	△ 222	△ 1,041
23	523	1,394	△ 871	1,782	1,996	△ 214	△ 1,085
24	514	1,440	△ 926	1,706	2,060	△ 354	△ 1,280



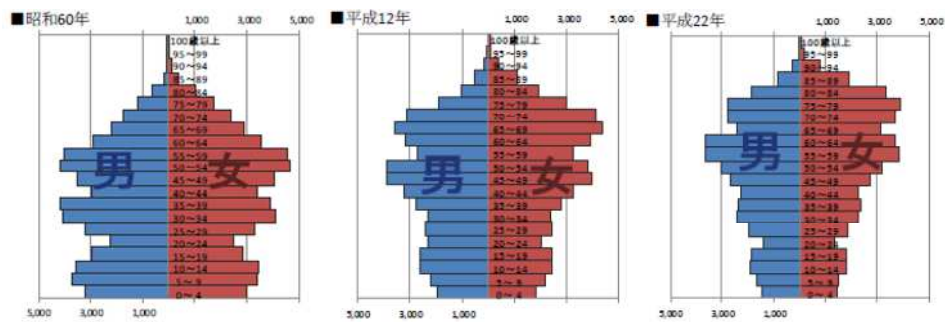
資料：大仙市（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

## (2) - 2 年齢別人口

本市人口の年齢別割合は、年少人口（15歳未満）11.1%、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）57.8%、老年人口（65歳以上）31.1%であり、昭和60年と比較すると、年少人口・生産年齢人口割合の減少、老年人口割合の増加が顕著となっている。

男女別年齢階級別人口

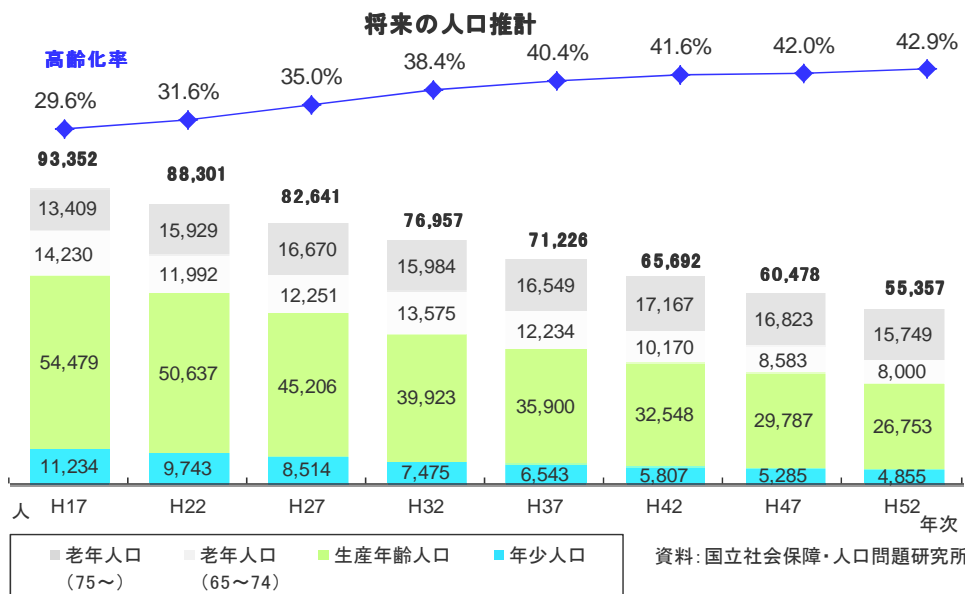
区分	昭和60年				平成12年				平成22年				(参考)平成25年			
	男性	女性	合計	割合	男性	女性	合計	割合	男性	女性	合計	割合	男性	女性	合計	割合
年少人口 (15歳未満)	10,446	9,835	20,281	19.1%	6,796	6,429	13,225	13.5%	4,966	4,777	9,743	11.1%	4,719	4,482	9,201	10.5%
生産年齢人口 (15～65歳未満)	34,216	36,910	71,126	67.2%	29,402	30,324	59,726	60.7%	25,212	25,420	50,632	57.8%	25,338	25,116	50,454	57.3%
老年人口 (65歳以上)	5,979	8,540	14,519	13.7%	10,382	14,993	25,375	25.8%	11,007	16,192	27,199	31.1%	11,183	17,118	28,301	32.2%
合計	50,641	55,285	105,926	100.0%	46,580	51,746	98,326	100.0%	41,185	46,389	87,574	100.0%	41,240	46,716	87,956	100.0%



資料：国勢調査、住民基本台帳

## (2) - 3 将来の人口推計

本市の人口は今後も減少傾向が続き、平成52年までに約55,000人になると予測されている。このことから、サステナビリティ（持続可能性）を意識したまちづくり、産業振興の推進が必要となっている。



### (3) 産 業

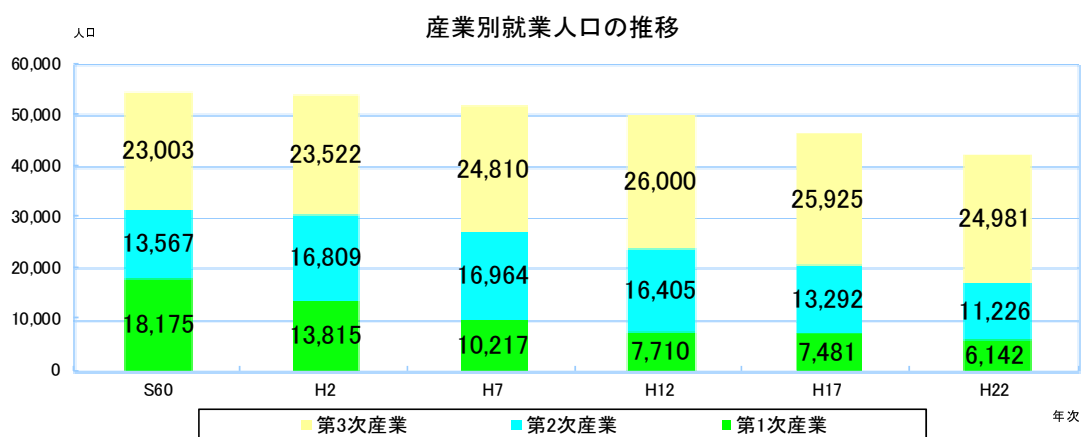
本市では、産業は地域活力の源泉であるとの考えのもと、市民が生き活きと希望を持って活躍できるまちの実現に向け、商工業や農林業、観光の振興のほか、雇用の安定、就労の推進について所要の施策・事業を展開している。

商工業・観光分野では、既存企業の振興や異業種間交流の促進、企業誘致の強化に取り組むとともに、「大曲の花火」を中心とした観光誘客の推進や魅力的なイベントの開催、特産品の開発・PRのほか、魅力ある商業地の形成や経営基盤の強化などに力を入れている。

また、農林業分野では、あきたこまちを中心とした高品質・良食味米の安定生産や地域に適合した農作物づくり、担い手の育成、生産環境の整備のほか、加工・販売・交流型農業の推進、農山村環境の改善・保全などに努めている。

#### ◆ 産業別就業人口の状況

本市の産業は、農業を中心とした第1次産業が基幹産業として位置付けられているが、その就業者数は年々減少しており、高齢化も進んでいる。一方、近年はサービス産業などの第3次産業就業者の割合が増加傾向を示している。また、全国的な人口減少・少子高齢化の進行、労働力人口の減少、成熟社会の進展等に伴い、今後において経済規模の縮小や地域間競争の進行などが懸念されており、こうした状況にしっかりと対応できる産業の育成・振興、都市としての個性や魅力づくりが求められている。



資料：国勢調査

#### (3) - 1 観光分野

本市は、日本最高峰の花火大会、全国花火競技大会「大曲の花火」をはじめ各地の花火大会、国指定重要無形民俗文化財の「刈和野の大綱引き」などの行祭事、国指定名勝「旧池田氏庭園」や国指定史跡「払田柵跡」などの史跡・文化財、「オブ山の大杉」をはじめ巨樹・巨木が多く生育し国内でも希な原生的自然が広がる「真木真昼県立自然公園」、特色ある温泉・観光関連施設など多種多様な観光資源を有している。





全国花火競技大会「大曲の花火」



国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」



国指定名勝「旧池田氏庭園」

#### ◆観光入込客数

観光入込客数は、大仙市誕生直後の平成 17 年と平成 24 年を比較すると、それぞれ 301.7 万人、251.8 万人と 49.9 万人減少している。減少内容は県内客が 8.3 万人の減、県外客は 41.4 万人の減となっており、県外客の落ち込みが顕著となっている。

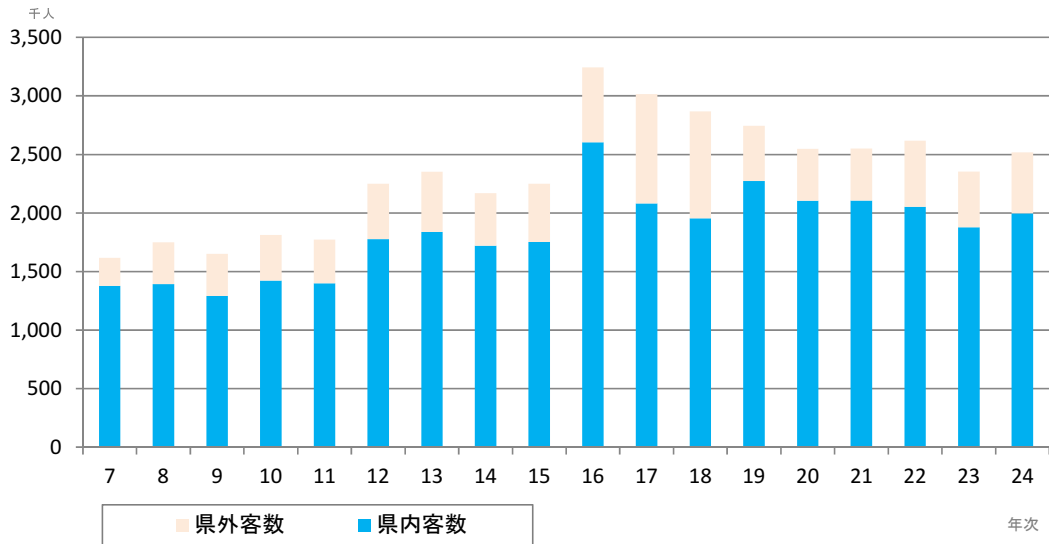
観光入込客数の内訳を見ると、観光行事では「大曲の花火」が突出した来場者となっており、秋の稔りフェア、新作花火コレクション、夏まつり大曲、神岡南外花火大会などもたくさんの方から来訪いただいている。施設関連では、市内 3 カ所の道の駅、県立農業科学館への来場が多く、最近では国指定名勝「旧池田氏庭園」への来場者が大幅に増加している。しかしながら、近年の統計結果を見ると秋田県が誇る「農」の祭典「秋田県種苗交換会」が本市で開催された平成 16 年の 324.2 万人をピークに減少傾向が続いており、地域経済低迷の一因になっている。

観光客数の推移

(単位：千人)

年次	計	県内客数		県外客数		宿泊客数	宿泊率	日帰客数
			比率		比率			
平成7年	1,615	1,379	85.4%	237	14.7%	135	8.4%	1,481
8	1,747	1,392	79.7%	357	20.4%	159	9.1%	1,588
9	1,653	1,292	78.2%	360	21.8%	170	10.3%	1,483
10	1,814	1,423	78.4%	390	21.5%	143	7.9%	1,670
11	1,771	1,400	79.1%	372	21.0%	123	6.9%	1,650
12	2,249	1,777	79.0%	473	21.0%	179	8.0%	2,071
13	2,353	1,839	78.2%	513	21.8%	172	7.3%	2,180
14	2,173	1,722	79.2%	448	20.6%	166	7.6%	2,006
15	2,251	1,753	77.9%	496	22.0%	161	7.2%	2,090
16	3,242	2,604	80.3%	640	19.7%	158	4.9%	3,082
17	3,017	2,080	68.9%	935	31.0%	153	5.1%	2,864
18	2,868	1,956	68.2%	911	31.8%	146	5.1%	2,722
19	2,746	2,272	82.7%	473	17.2%	144	5.2%	2,602
20	2,549	2,105	82.6%	444	17.4%	163	6.4%	2,386
21	2,550	2,106	82.6%	444	17.4%	146	5.7%	2,404
22	2,618	2,052	78.4%	566	21.6%	139	5.3%	2,479
23	2,355	1,877	79.7%	478	20.3%	150	6.4%	2,205
24	2,518	1,997	79.3%	521	20.7%	151	6.0%	2,367

資料：大仙市



主要観光行事への来場者

(単位：千人)

年次	全国花火競技大会	秋の稔りフェア	新作花火コレクション	夏まつり大曲	神岡南外花火大会	刈和野の大綱引き	ドンバンまつり	ジャンボウさぎフェスティバル	長野神社祭典
13	640	85	25	21	10	7	55	25	10
14	580	80	25	16	10	6	50	28	11
15	630	100	22	20	6	6	50	30	10
16	700	-	25	22	6	6	50	25	10
17	680	73	30	22	6	7	55	25	9
18	750	151	27	20	10	6	52	28	9
19	760	65	30	18	10	7	35	35	9
20	650	70	33	22	12	6	40	35	9
21	680	70	30	25	10	6	50	25	9
22	800	42	33	21	10	6	50	26	9
23	700	38	25	20	12	7	50	10	8
24	760	35	28	101	12	7	30	5	10

資料：秋田県観光統計

主要観光施設への来場者①

(単位:千人)

年次	道の駅かみおか 茶屋っこー里塚	道の駅協和 四季の森	道の駅なかせん こめこめプラザ	国指定名勝 旧池田氏庭園
17	154	493	169	8
18	154	214	170	6
19	151	216	160	9
20	144	212	134	7
21	137	207	146	9
22	125	231	149	9
23	116	216	157	22
24	111	220	149	21

主要観光施設への来場者②

(単位:千人)

年次	大曲			仙北		南外	協和		
	産業展示館	県立農業 科学館	弘田柵 総合案内所	餅の館	仙北民俗 資料館	南外民俗 資料館	物部長穂 記念館	大盛館 (民俗資料展示館)	くらしの 歴史館
3	7			4					
4	6			5					
5	6		5	5					
6	6		14	4			3		
7	5		11	4	1		4		
8	5		9	4	2		3		
9	6		9	3	4		3		
10	6		8	4	3		3		
11	4		10	5	4		2	1	
12	6		13	8	6		2	1	
13	6	74	14	10	9		2	2	
14	6	85	14	13	11	7	2	2	
15	10	106	14	12	10	7	3	3	
16	9	120	13	4	1	8	2	2	
17	11	109	13	1	1	2	2	2	
18	9	115	13	1	1	3	2	2	
19	7	112	14	1	1	2	1	2	
20	8	109	14	1	1	2	1	3	
21	9	112	15	1	1	1	1	2	
22	8	110	13	1	1	1	1	2	
23	6	94	12	1	1	1	1	2	
24	7	98	13	1	1	1	1	1	6

資料: 秋田県観光統計・大仙市



国指定名勝「旧池田氏庭園」



国指定史跡「弘田柵跡」



### (3) - 1 - 1 全国花火競技大会「大曲の花火」

本市が誇る全国花火競技大会「大曲の花火」は、毎年8月第4土曜日に市内大曲地域雄物川河川敷で盛大に開催される花火大会で、来場者が一晩で70万人を超える、東北の晩夏の一大イベントとなっている。一般の花火大会とは異なるコンペティション大会であり、内閣総理大臣賞・経済産業大臣賞・中小企業庁長官賞・文部科学大臣奨励賞・観光庁長官賞が授与されるなど、格式と伝統、質の高さにおいて、日本最高峰の花火大会と称されている。



70万人を超える大観衆を魅了する全国花火競技大会「大曲の花火」

#### ◆「大曲の花火」の特徴

「大曲の花火」の特徴は、全国から選抜された一流の花火師が集い、実際に花火玉を製作した花火師自らが打ち上げること、後背に出羽丘陵、眼前に雄物川が流れ、音響・色彩・安全の面で全国屈指と言われる環境に恵まれていること、競技玉として創造花火が採用されていることなどがあげられる。

創造花火は、昭和39年（1964年）の全国花火競技大会から全国で初めてとり入れられたもので、ここ秋田県大仙市が創造花火の発祥地となっている。創造の名のごとく従来の丸型の概念を破った花火で、打ち上げ花火にテーマを設け、形態・色彩・リズム感・立体感など花火師の創造性を追求したものとなっており、毎年斬新なテーマ性に優れた花火が夜空いっぱい描かれる。平成26年はこの創造花火が誕生してから50周年となる記念すべき年にあたっており、「創造花火半世紀 ～ 先人を讃え、新たなステージへ ～ 守・破・離」をテーマに、創造花火の歴史の集大成にふさわしい大会を目指している。



### ◆「大曲の花火」の競技内容

全国花火競技大会の競技部門は、「昼花火の部」と「夜花火の部（十号芯入割物・十号自由玉・創造花火）」で構成されている。「打上高度と開き」「音と色彩」「リズムと総合美」「意匠と斬新性」「安全性」などの観点から総合的に審査が行われ、優秀な作品には、内閣総理大臣賞、経済産業大臣賞、中小企業庁長官賞、文部科学大臣奨励賞、観光庁長官賞など数々の褒賞が与えられる。また、競技部門とは別に「仕掛花火」が用意され、大会オープニングの「ナイヤガラ付大スターマイン」、毎回テーマを設定し趣向を凝らした「大会提供花火」や大会フィナーレの「十号割物 30 連発大スターマイン」など、大会協賛企業による大型の仕掛花火が盛大に打ち上げられ本大会に花を添えている。



昼花火



十号割物の部



創造花火



大会提供花火

### ◆「大曲の花火」の歴史

当地域での花火の歴史は古く、江戸時代まで遡るとされている。文献上で花火らしきものが初めて登場するのが、文化・文政期（1800年初期）に菅江真澄が記した地誌「月の出羽路」に描かれている民俗行事「大曲ノ郷の眠流」の挿絵である。挿絵には丸子橋の上を



行く眠り流しの灯籠とともに、後方の川原で打ち上げられている花火が描かれている。また、本市大曲地域上大町地区の諏訪神社が所蔵する、市指定の有形歴史文化財で明治初年の作と推定される「大曲村年中行事絵巻物」に祭典風景が描かれ、その中に花火の打ち上げの様子が登場する。

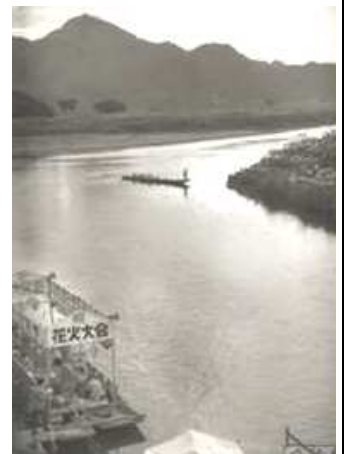


大曲村年中行事絵巻物

花火は藩政時代から秋田に広く普及していたとされている。仙北平野の米産地の中心地であり、雄物川につながる丸子川の川港を中心に大いに栄えた本市大曲地域でも、行事や祭りなどで花火が盛んに打ち上げられていたと考えられており、その頃から地域にとって欠かせない存在であったと推測される。

「大曲の花火」の起源は、明治43年8月26日諏訪神社の祭典の余興として開催された「奥羽六県煙火共進会」である。大正4年には「全国煙火大競技会」として規模を全国に広げ、その後、戦争や不況などにより一時中断したが、戦後昭和21年に「全国花火競技大会」として復活を遂げている。

昭和30年代には、大曲市商工会（現・大曲商工会議所）が主催となり、昭和38年には「通商産業大臣賞」（現・経済産業大臣賞）が賞に加わり、翌昭和39年には「創造花火」という花火の新境地を生み出す。



昭和40年代の大会では色々な試行錯誤が行われ、中小企業庁長官賞が加わり、昭和53年には昼花火競技が新たに始まった。昭和50年代後半には西ドイツ・ボン市で「大曲の花火」が打ち上げられ好評を博している。

昭和60年代は大会の充実期に入り、競技大会のレベルが高くなるとともに、競技とは別の特別企画番組（大会提供花火）も話題となる。昭和62年には、日独文化交流としてベルリン市750年祭街頭フェスティバルのフィナーレを「大曲の花火」が飾り、世界にその名を刻んでいる。

平成に入り「花火サミット」など世界レベルの大会が催されるようになる。平成4年大会時に開催された「国際花火デザインフェアイン大曲'92」では、花火の芸術性について世界7カ国の花火師等が参加し意見交換等が行われている。

平成8年からは、科学技術庁長官賞（現・文部科学大臣賞）が夜花火競技の奨励賞として授与され、また、創造花火の開発と国際交流における功績が認められ、第46回河北文化賞を受賞する。またハンガリーのブダペストで5度目の「大曲の花火」海外打ち上げの成功により、さらに権威ある競技大会として位置付けられる。

平成9年には、観客の大幅な増加を背景に大会運営の強化と市民の安全確保の観点から大曲市（現・大仙市）も主催に加わり、平成10年からはNHK衛星放送で生中継が開始され、全国的な知名度が一層高まり、さらなる観客の増加につながる。

平成12年には、内閣総理大臣賞が夜花火の部の最優秀賞として加わり、名実ともに日本最高峰の花火競技大会として位置付けられる。平成14・15年には、韓国で開催された「韓国観光フェスティバル」で「大曲の花火」を打ち上げ、好評を博した。

平成22年には「大曲の花火」誕生100周年の大きな節目を迎え、過去最高の80万人の人出（主催者発表）を記録する。

平成24年には観光庁長官賞が新たに加わり、平成25年には創造花火プレ50周年として「創造花火半世紀 序章 守・破・離」をテーマに盛大に開催、平成26年には創造花火誕生50周年記念大会を迎える。

「大曲の花火」歴史年表（抜粋）

1910	明治43	奥羽六県煙火共進会としてはじまる
1915	大正4	全国煙火大競技会に名称変更
1927	昭和2	2尺玉（直径約60cm）が初登場、東北では初の打ち上げ
1946	昭和21	全国花火競技大会に名称変更
1954	昭和29	大曲市が誕生、大曲市長杯創設
1959	昭和34	花火のアナウンサーに初めて女性を採用、現在の花火のアナウンスの原形ができあがる
1963	昭和38	茨城県土浦市に続き通産大臣賞が創設され、名称も輸出振興全国花火競技大会に変更
1964	昭和39	創造花火が競技玉に加わる
1967	昭和42	音楽と花火によるムード花火「詩と音楽と花火とふるさとの四季」を打ち上げる
1969	昭和44	河川改修に伴い、現在の打ち上げ場所で大会を開催
1972	昭和47	全国花火競技大会に名称変更
1978	昭和53	屋花火が競技種目に加わる
1979	昭和54	西ドイツ・ボンで日独親善花火を打ち上げる
1982	昭和57	10号割物の部を「課題玉」と「自由課題玉」の2発とする
1983	昭和58	西ドイツ・ジュッセルドルフで花火を打ち上げ
1987	昭和62	西ドイツ・西ベルリン、ジュッセルドルフで花火を打ち上げ
1990	平成2	国際花火師会議を開催
1992	平成4	国際花火デザインフェアを開催し、7カ国から39業者が参加
1996	平成8	秋田県伝統的工芸品に「大曲の花火」の割物花火が指定、ハンガリー建国千百年祭で花火を打ち上げる
1997	平成9	大曲市（現・大仙市）が主催に加わる
1998	平成10	NHK衛星放送で生中継開始
2000	平成12	日本で初めて総合優勝者に内閣総理大臣賞を授与
2002	平成14	韓国観光フェスティバルで花火を打ち上げる
2003	平成15	韓国観光フェスティバルで花火を打ち上げる
2010	平成22	「大曲の花火」誕生100周年、過去最高の80万人を記録（主催者発表）
2013	平成25	創造花火プレ50周年大会を開催



### ◆「花火のまち大仙」

本市では、この「大曲の花火」が県内外を問わず広く認知されていること、地域経済にも大きな恩恵をもたらし、本市の発展の源泉のひとつとなっていること、市内では「大曲の花火」以外にも、毎月様々な花火が打ち上げられており、我々にとって「花火」は身近で欠かすことができない存在になっていることなどを踏まえ、「花火のまち大仙」を標榜し、様々な機会を捉えて本市のアイデンティティのひとつとして全国にPRしている。

[市内各地の花火（抜粋）]



1月 カウントダウン花火



2月 太田の火まつり



3月 新作花火コレクション



4月 余目さくら花火鑑賞会



5月 花火鑑賞士の集い



6月 権岡さなぶり酒花火



7月 大曲養護学校七夕花火



7月 協和七夕花火



8月 ふるさと西仙まつり



8月 彩夏せんぼく



8月 ドンパン祭り



8月 全国花火競技大会



9月 神岡南外花火大会



10月 飯田五社競演花火大会



11月 残月花火



12月 大曲南部地区イルミネーション花火

### ◆「大曲の花火」の経済波及効果

「大曲の花火」は、日本中から数多くの観客の皆様を訪れていただいております。交通や宿泊などの観光関連産業をはじめ、飲食、小売・卸売、建設、農業など幅広い産業分野に大きな恩恵をもたらしている。また、その範囲は広く、秋田県はもとより県外へも大きな経済波及効果をもたらしている。

#### 平成 22 年 第 84 回全国花火競技大会における経済波及効果・雇用創出効果

秋田県内に限定しない経済波及効果	155.7 億円
秋田県内への経済波及効果	90.3 億円
秋田県内に限定しない雇用創出効果	1,443 人
秋田県内への雇用創出効果	965 人

「大曲の花火」の経済波及効果		
(単位:百万円)		
① 最終需要額	7,827	
(単位:百万円)		
	生産誘発額	うち、秋田県分
② 直接効果	7,530	4,921
③ 第1次間接効果	4,873	2,625
④ 第2次間接効果	3,171	1,485
⑤ 経済波及効果	15,574	9,032
⑥ (波及倍率 = ⑤ / ②)	(2.07)	(1.84)
(単位:人)		
	雇用創出数	うち、秋田県分
⑦ 雇用創出効果	1,443	965

(注1) 生産誘発額および雇用創出数は、全国分と秋田県分を合算した値である。  
(注2) 直接効果とは、国(県)内で生産されている商品に対して観客が支払った金額である。したがって、たとえ国(県)内で販売されていても、製造元が国(県)内でない商品への支出額は含まれない。  
(注3) 間接効果とは、雇用者所得の増加を通じて支払われる家計消費のうち、国(県)内で生産されている商品に対する支出額である。  
(注4) 四捨五入により、経済波及効果は各項目の合計額と必ずしも一致しない。

出典：第84回全国花火競技大会「大曲の花火」開催に伴う経済波及効果 株式会社フィデア総合研究所(平成22年10月)



## ◆「大曲の花火」に関連した取り組み

本市では、「大曲の花火」のブランド力を活かした様々な取り組みが行われている。「花火のまち大仙」としてのイメージアップと地域の活性化を図ることを目的に開催している「新作花火コレクション」や「大曲の花火」の1週間前からスタートする地域活性化事業「大曲の花火ウィーク」などのイベントをはじめ、「大曲の花火」をイメージさせる御菓子類や農産物、各種商品の販売など、民間の団体・会社・個人を問わず、様々な主体による取り組みがなされている。しかしながら、分野や実施主体が異なるなどの理由から、全市統一的な取り組みが難しく、個々の成功例はあっても他の取り組みへ波及していない状況にあり、そのブランド力が持つポテンシャルを最大限引き出せるような新たな取り組みが課題となっている。

[NPO 法人大曲花火倶楽部の取り組み]

NPO 法人大曲花火倶楽部は、日本の伝統的・総合的芸術である花火への理解を深めること、花火に関連した事業を通じ地域活性化を図ることを目的として設立された特定非営利活動法人。新作花火コレクションの開催や「花火暦」の発行、「花火鑑賞士」認定試験事業など創意工夫に富んだ取り組みを行っている。こうした取り組みが認められ、秋田県地域活性化特別表彰や、全国の地方新聞社と共同通信社による地域再生優秀賞などの表彰を受けている。

[大曲の花火ウィークの様子]

「大曲の花火」の1週間前に開催されるイベント「大曲の花火ウィーク」。大仙市が誇る地元花火作家による「花火」、民謡やポップス、楽器演奏、民族音楽、太鼓、ジャズなどジャンルを越えた「音楽」、県内と東北のご当地グルメ仲間が大集結する「食」といった要素を取り入れた魅力溢れる内容で大盛況となっている。



## ◆花火に関する展示・見学

「大曲の花火」の開催前には、花火大会の桟敷席の購入方法や観覧会場までのアクセス、駐車場の位置等花火大会に関する情報について毎年たくさんの照会をいただいている。中でも多いのが、花火の資料展示施設や花火工場の見学・体験施設を紹介して欲しいというものである。照会者への聞き取り調査によれば、花火大会観覧者の多くが大会当日の朝あるいは前日に大仙市に入るため、大会開始時刻まで相当の時間があり、その時間を活用して花火資料館等で花火の知識などを深めたいという意見が多くあった。また、「大曲の花火」の開催地であれば、花火に関する施設があるのではと思いい照会してみたなどのお話も多くいただいている。こうした照会は花火大会開催期間以外にも年を通してあり、花火に関する展示施設あるいは見学が行えるような施設への高いニーズが伺える。

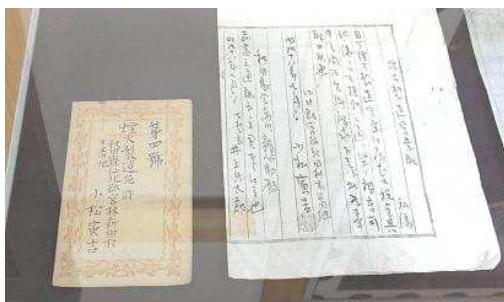
### (3) - 1 - 2 大仙市花火伝統文化継承事業

本市では、花火を日本の伝統文化と捉え、「大曲の花火」をはじめとする花火に関する資料の収集・保存を行い、将来にわたる貴重な文化的財産として後世に確実に継承していくための取り組みとして「花火伝統文化継承事業」を平成20年度から展開している。本事業では、ボランティアグループとの協働により、全国あるいは海外の花火関連資料の収集・整理・保管活動を実施しており、全国の花火大会の公式プログラムやポスターをはじめ、花火の記録映像、書籍、カレンダーのほか、「大曲の花火」に関する絵コンテや花火の打上会場の模型、新聞記事など、約5,000点（平成25年12月現在）が集まっている。これらの資料は、旧教育関連施設を再利用して整理・保管を行っているが、収集資料が増え保管スペースが手狭になってきている上、歴史上貴重な資料も提供いただいている状況から、新たな保存場所の確保が求められている。

#### ■ 主な収集資料の実績

- ・ポスター
- ・公式プログラム
- ・映像（花火の記録映像、テレビ番組、市販DVD、花火鑑賞士講義 等）
- ・書籍・雑誌・カレンダー・紙芝居 等
- ・資料（新聞記事、関係者資料、絵コンテ、配合秘伝書、保安関係資料 等）
- ・模型（花火打上会場の模型 等）

一方、こうした花火資料の収集・整理・保存や、花火文化に関する研究については全国的にもあまり例がなく、また花火を知り・学ぶ施設も少ないことから、日本の花火文化の価値を高め、後世に継承していく重要な取り組みのひとつとして、今後も継続していく必要があるものと考えている。



### (3) - 2 工業分野

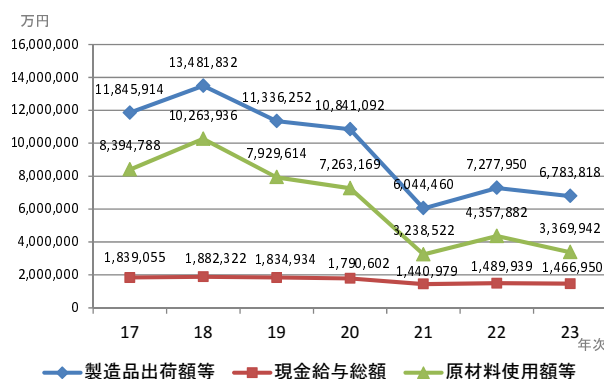
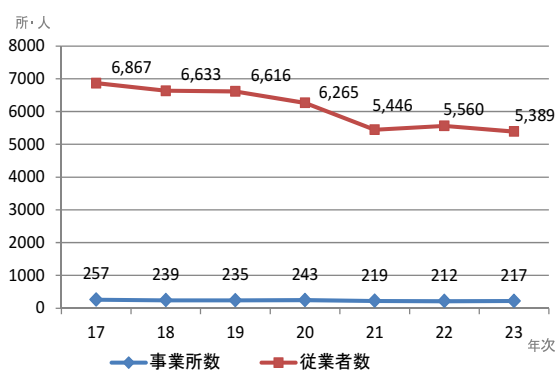
本市の工業については、幅広い生産活動を通じて地域経済の活性化に大きな役割を果たすとともに、雇用の場の創出による若年層の地元定着など、人口減少の抑制にも結びついており、本市の発展に寄与している。

しかしながら、国の経済政策、いわゆる「アベノミクス」の展開により一部には明るい兆しが見えるものの、地方経済は依然として回復には至っておらず、また、国内市場の成熟化、市場のグローバル化などとあいまって、中長期的な生産計画が立てにくい状況となっており、総じて厳しい経営環境となっている。

平成 23 年の工業統計調査によると、本市の製造業は、事業所数 217、従業員数 5,389 人、製造品出荷額 678 億 3,818 万円と減少傾向を示している。また、企業立地についても、円高の是正により一部に国内回帰の動きがあるものの、経済のグローバル化を背景に、よりコスト面でメリットが大きい海外へのシフトが定着し、企業の国内投資意欲の減退が深刻化するなど、地方への新規の企業誘致は総じて厳しい状況となっている。

事業所数・従業員数・製造品出荷額等の推移

年次	事業所数 (所)	従業員数 (人)	製造品出荷額等 (万円)	現金給与総額 (万円)	原材料使用額等 (万円)
17	257	6,867	11,845,914	1,839,055	8,394,788
18	239	6,633	13,481,832	1,882,322	10,263,936
19	235	6,616	11,336,252	1,834,934	7,929,614
20	243	6,265	10,841,092	1,790,602	7,263,169
21	219	5,446	6,044,460	1,440,979	3,238,522
22	212	5,560	7,277,950	1,489,939	4,357,882
23	217	5,389	6,783,818	1,466,950	3,369,942



資料：工業統計調査

#### ◆花火製造等の状況

本市は、地域内に花火会社 5 社が集積する全国でも希少な地域である。地元花火会社には優れた花火師が多く様々な花火大会で優秀な成績を収めており、まさに日本屈指の技術を誇る花火玉産出地のひとつとなっている。





[地元花火師の花火大会優勝・準優勝歴（抜粋）]

㈱北日本花火興業	全国花火競技大会（秋田県）、土浦全国花火競技大会（茨城県）、隅田川花火コンクール（東京都）、全国デザイン花火競技会（山形県）、やっしろ全国花火競技大会（熊本県）、全国新作花火競技大会（長野県）、伊勢神宮奉納花火競技大会（三重県）、ふくろい遠州の花火（静岡県）、新作花火コレクション（秋田県）ほか
㈱小松煙火工業	全国花火競技大会（秋田県）、土浦全国花火競技大会（茨城県）、全国デザイン花火競技会（山形県）、やっしろ全国花火競技大会（熊本県）、ふくろい遠州の花火（静岡県）、全国新作花火競技大会（長野県）、新作花火コレクション（秋田県）ほか
㈱和火屋	全国花火競技大会（秋田県）、土浦全国花火競技大会（茨城県）、全国デザイン花火競技会（山形県）ほか
大曲花火化学工業(有)	全国花火競技大会（秋田県）、土浦全国花火競技大会（茨城県）、やっしろ全国花火競技大会（熊本県）、全国十号玉新作花火コンテスト（長野県）、新作花火コレクション（秋田県）ほか

日本国内の花火玉の需給状況については、慢性的に国内産の供給が不足しており、海外産の花火玉に依存せざるを得ない状況となっている。こうした中、昨今の花火大会での事故等を受け、花火大会運営についてより一層の安全性の確保が求められるようになってきており、これに伴い、花火玉についてもより安全で高品質な国内産花火玉の需要が高まっている。

国産煙火生産量とその金額

年度	種類										合計	
	3号以下		4～5号		6～8号		9号以上		仕掛け		生産量 (千個)	金額 (百万円)
	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)		
21	1,786	1,886	519	1,448	37	374	16	512	128	1,038	2,486	5,258
22	1,607	1,642	492	1,280	37	346	16	474	133	1,114	2,285	4,856
23	1,304	1,502	448	1,142	34	345	14	418	86	980	1,886	4,387
24	1,525	1,761	511	1,372	39	433	16	524	101	1,122	2,192	5,212

資料：経済産業省火薬取締年報

秋田県産の煙火生産量とその推計金額

年度	種類										合計	
	3号以下		4～5号		6～8号		9号以上		仕掛け		生産量 (千個)	金額 (百万円)
	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)	生産量 (千個)	金額 (百万円)		
21	85	98	32	89	3	26	1	28	4	32	125	273
22	66	70	30	84	3	28	1	45	4	29	104	256
23	58	60	27	70	2	18	1	27	3	26	91	201
24	70	81	29	73	3	32	1	36	3	28	106	250

資料：経済産業省火薬取締年報

煙火その他火工品輸入量

年度	輸入量 (千個)
21	128,467
22	44,438
23	51,137
24	76,648

資料：経済産業省火薬取締年報

煙火輸出入額

年度	輸出額 (百万円)	輸入額 (百万円)
21	36	1,614
22	21	1,111
23	63	1,193
24	44	1,241

資料：公益社団法人日本煙火協会

最近の煙火関係事故(煙火)

年度	件数 (件)	死亡 (人)	負傷 (人)	計
21	18	0	32	32
22	28	0	30	30
23	19	0	16	16
24	43	0	27	27

資料：公益社団法人日本煙火協会

花火業界では、事故等への安全対策や環境問題への適切な対処などについて、これまで以上に要求が高まっており、これに対応できる優れた技術や知識を有した人材の継続的な確保が求められている。また、一部では後継者不足が顕在化しつつあり、その確保・育成が課題のひとつとなっている。

こうした状況の中、花火に関する教育機関については全国的に見ても数が少なく、花火にとって必要な人材が将来的に不足することが懸念されている。加えて、花火の技術的進歩が著しい昨今にあって、さらなる日本の花火の発展にはイノベーション（技術革新）が重要となっており、花火に関する技術的・科学的な研究・開発が行える場の創出、あるいは花火師がスキルアップできる環境づくりが必要となっている。

煙火関連業者数（公益社団法人日本煙火協会会員分）

区分		業者数	計
製造業者 (販売含む)	煙火専業	120	148
	がん具専業	19	
	煙火・がん具兼業	4	
	火工品	5	
販売業者 (販売のみ)	煙火専業	145	184
	がん具専業	13	
	煙火・がん具兼業	22	
	火工品	4	
合計			332

資料：公益社団法人日本煙火協会 平成25年12月末現在  
火工品：火薬や爆薬を加工・成形したもの。信管・雷管・実包・空包等

### (3) - 3 商業分野

本市の商業は、消費者ニーズの多様化、交通環境の変化による商圈の広域化、電子商取引の普及などに加え、人口減少・少子高齢化に伴う消費の縮小などにより、卸売業・小売業とも売上げの減少傾向が続いている。

平成24年の経済センサスによると、事業所数1,075、従業員数5,625人、年間商品販売額121,390百万円となっており、平成19年との比較ではいずれも減少している。

これに加え、後継者不足、新規開業者の減少なども重なり、市内各地域では空き店舗や空き地が発生するなど厳しい状況となっている。

商店数・従業者数・年間商品販売額の推移

年次	商店数(店)			従業者数(人)			年間商品販売額(百万円)		
	総数	卸売業	小売業	総数	卸売業	小売業	総数	卸売業	小売業
平成19年	1,392	168	1,224	7,735	1,122	6,613	157,978	55,129	102,849
平成24年	1,075	144	931	5,625	864	4,761	121,390	37,410	83,980

資料：商業統計調査、経済センサス

こうした状況を踏まえ、大曲商工会議所、大仙市商工会では、中小企業相談所業務として金融・労務・経理等への支援や経営革新・創業支援、人材育成支援、関連情報提供のほか、地域の活性化につながる各種イベントの開催や商店街等の活動の支援を通じ、魅力的な商業活動の推進や経営基盤の強化・安定化などの取り組みを積極的に推進している。大仙市においても、商店街等に対する活動支援や市民が安心して訪れることができる商業環境の構築支援、融資制度の拡充、空き店舗対策など多岐にわたる支援を実施するとともに、今後の少子高齢・人口減少社会の進行を見据えた持続可能なまちづくりの観点から、集約型都市構造への転換が必要となっていることを踏ま

え、「大仙市都市計画マスタープラン」や「大仙市中心市街地活性化基本計画」を策定し、商業施設を含めた都市機能の無秩序な拡散を回避しながら、それぞれの特性に応じた各地域の拠点づくりに取り組んでいる。

### (3) - 4 農業の状況

本市の農業は、恵まれた土壌や気象条件、生産者のたゆまぬ努力、市場での高い評価等により、米づくりを中心とした農業生産を展開し、米の一大産地としてその地位を確立してきた。しかしながら、全国的に米の需要が減少していく中で、生産が需要を上回り、供給過剰を起因とした米価の下落が続いており、米づくり中心の生産構造と相まって農家所得は減少し、市全体の農業粗生産額も減少を続けている。また、従事者の高齢化や後継者・新規就農者の不足等により、農家戸数、農家人口、農業就業人口とも大幅な減少傾向を示しており、今後の地域農業を支える農業法人や集落営農組織、認定農業者などの多様な担い手の確保・育成が重要な課題となっている。

こうした中、農政の大転換として、農業・農村に大きな影響を与える平成30年度からの米生産調整廃止や、平成26年度からの「米の直接支払交付金」の半減、米価下落を補填する「米価変動補てん交付金」の廃止が決定され、TPPへの参加交渉も含め、地域農業そのもののあり方を再検討しなければならない時期を迎えている。

### (4) 雇用情勢

平成20年に始まった世界金融危機は、発生以来、世界経済を急速に減速させ、輸出主導の構造になっている我が国の経済に深刻な打撃を与えた。昨年からの国の経済政策により一部に緩やかな回復基調が示されたものの、地方では未だはっきりとした景気回復が実感できない状況となっている。

こうした中、管内の雇用情勢については幾分改善の兆しが見えてきており、平成21年に0.18であった常用一般の有効求人倍率が平成24年では0.40に、平成26年1月末現在では0.51に改善されている。

しかしながら、依然として正規雇用求人は厳しい状況が続いており、就職等による転出に歯止めをかけ、本市人口の社会減を抑制する観点から益々その対応が求められている。

職業紹介の状況

単位：人、%

年度	求職		求人		求人倍率		就職者			就職率
	新規	有効	新規	有効	新規	有効	総数	男	女	
18	5,110	18,547	4,933	12,241	0.97	0.66	1,541	841	700	30.2
19	5,000	19,569	4,091	10,133	0.82	0.52	1,540	850	690	30.8
20	5,844	23,075	2,699	6,156	0.46	0.27	1,473	798	673	25.2
21	5,477	27,158	2,542	4,989	0.46	0.18	1,406	742	663	25.7
22	4,651	22,509	3,125	6,899	0.67	0.31	1,455	701	751	31.3
23	3,636	20,883	3,408	7,413	0.94	0.36	1,683	878	794	46.3
24	4,442	20,906	3,640	8,432	0.82	0.4	1,751	854	897	39.4
26.1	3,781	15,631	3,574	7,881	0.98	0.51	1,398	751	647	37.8

注1)管内＝大仙市及び美郷町

注2)就職率＝就職者/新規求職者

注3)26.1は25.3から26.1までの総数

資料：大曲公共職業安定所（角館出張所分を除く）

## 2. ニーズ等に関する把握・分析

### ◆市民による市政評価

市では、市の施策に対する市民の意見を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結び付けるとともに、調査報告を通じて多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する一層の理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的に、平成18年度から「市民による市政評価」を実施している。平成25年度については、市総合計画に示す施策体系に基づく項目・分野ごとに「満足度」や「重要度」、「今後さらに推進すべき取り組み」について伺い、413人から回答を得た。

調査対象 : 1,002人 (市内在住18歳以上無作為抽出者1,000人+希望者2名)

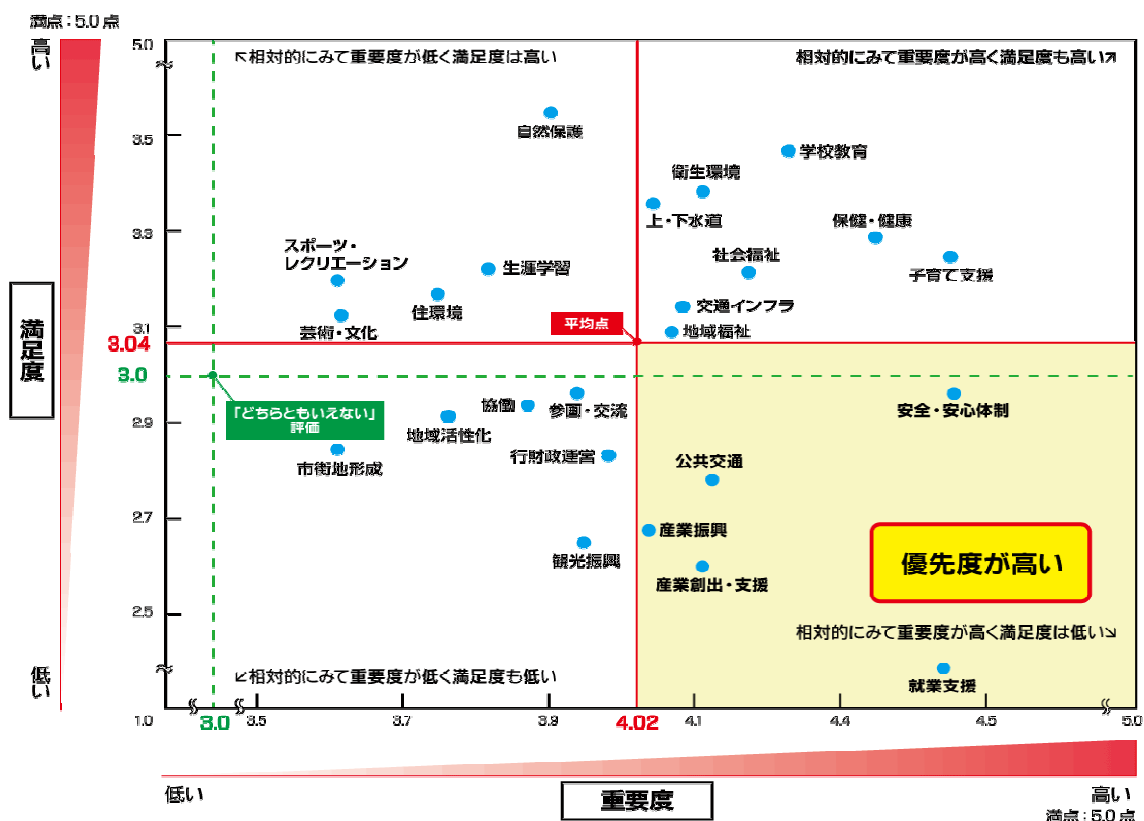
調査手法 : 郵送アンケート(無記名回答)方式

調査期間 : 平成25年5月24日(金)~6月7日(金)

調査回収率 : 回収数…413人 回収率…41.2%

集計の結果、満足度の上位項目は「自然保護」、「学校教育」、「衛生環境」、下位項目は前年度同様「就業支援」、「産業創出・支援」、「観光振興」の順となり、また、重要度の上位項目は、「安全・安心体制」、「子育て支援」、「就業支援」、下位項目は「スポーツ・レクリエーション」、「市街地形成」、「芸術・文化」の順となった。

これは「就業支援」、「産業創出・支援」、「産業振興」の項目が相対的に優先度の高い施策であることを示している。



### 3. 上位計画・関連計画等

#### (1) 大仙市総合計画

大仙市総合計画（平成 18 年 3 月策定）では、将来都市像として「人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市」を掲げ、既存の都市機能に加え、自然環境・田園との調和を図りながら、安らぎと居住性、快適性の高い都市空間の創出に努め、人が生き・集うような魅力ある地域、安心して暮らせる地域の創造を目指している。また、地域の特色・独自性を活かしつつ、本市の一体性を早期に確立し、生活・文化の根源である農業を大切にしながらも、産業振興と雇用の創出による交流人口の拡大を促進し、夢のある田園交流都市を創造するための 3 つの基本理念を掲げるとともに、将来都市像の実現に向けた 6 つの施策の柱を設定しまちづくりを進めることとしている。

#### 大仙市総合計画 基本構想

将来都市像	『人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市』
基本理念	○ 人が生き 地域が輝くまち ○ 人が集い 地域が躍動するまち ○ とともに支え合い 笑顔と豊かな心に出会うまち
施策の柱	1. 安心して健やかに暮らせるまちづくり 2. 未来を創り心豊かな人を育むまちづくり 3. 生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり 4. 生活の基盤が整ったまちづくり 5. 環境と調和し快適で安全に暮らせるまちづくり 6. 仲間とふれあいともに活躍できるまちづくり

施策の柱として掲げる「生き活きと希望を持って活躍できるまちづくり」では、産業は地域経済を支え、就業機会と所得をもたらす地域活力の原動力と位置付け、農林業・商工業を中心にその振興を図ることとしている。特に少子化等により若者が減少することを踏まえ、若者にとって魅力ある産業や雇用の場の創出を図るとともに、市民の起業に対する支援や就業希望者に対する支援に取り組むこととしている。また、本市の持つ豊かな地域資源や交通の利便性を活用し、観光の振興を図り交流人口の拡大を目指すこととしている。

#### (2) 大仙市観光振興計画

大仙市観光振興計画（平成 22 年 3 月策定）では、本市が有する自然、景観、史跡、食、雪、温泉などの高質で豊富な観光資源や、秋田県内有数の穀倉地帯であり豊かな自然と農村地帯の原風景が四季折々に色濃くその表情を見せる本市の特性を活かすとともに、全国花火競技大会をはじめ市内で行われている花火を結びつけながら、社会情勢やライフスタイルの変化、観光の目的や形態の多様化に対応した、楽しく充実した過ごし方を提案する観光振興の展開を目指すこととしている。

また、地域に伝わる文化や伝統、歴史等の特性を活かした観光は、新たな観光資源の発掘と地域振興にとどまらず、市民による自分たちのまちの再認識と地域に対する

愛着や誇りの醸成を促し、結果として、観光客と地域の方々の交流やふれあいの機会を生み、まちの賑わいや活気に満ちた地域社会を生み出すとの考えのもと、地域の優れた“素材”を知恵と工夫により、次代のニーズに対応した観光資源として魅力を高めることを念頭に、観光に必要とされる「遊び」「学び」「癒し」「食」といった要素を踏まえつつ、『誇りの花火』・『豊かな自然』の2つの基本理念、3つの基本方針を掲げ、「花火と自然が調和した 癒しのまち だいせん」をテーマに、8つの観光戦略に基づいた施策を展開することとしている。

<b>大仙市観光振興計画</b>		(平成22年3月策定 計画期間 平成22~27年度)	
基本理念	『花火と自然が調和した 癒しのまち だいせん』		
基本方針1	まちと人と自然の融合のまちづくり		
基本方針2	美と伝統の融合するまちづくり		
基本方針3	もてなしの心があふれる温かいまちづくり		
観光戦略	(1) 情報収集・魅力の発信強化	(2) 魅力ある観光地づくり	
	(3) もてなし力の向上	(4) 食によるコンテンツの充実	
	(5) 国際観光の推進	(6) 地域間交流の拡大	
	(7) 観光基盤整備	(8) 観光関連産業との連携	

### (3) 大曲商工会議所基本方針（平成25年度）

大曲商工会議所では、「大曲の花火」を核として、「花火ウィーク」や特産品・土産品などの物販・販売促進をねらいとするネットショップ「大曲の花火」市場の開設により、地域の価値づくりやブランドづくりを支援し、観光振興や地域活性化を推進することとしている。また、「大曲の花火」の大会自体についても、「安心・安全」をモットーに世界を視野に入れ、一層の革新と発展に努めることとしている。さらに、全国各地の商店街が衰退する中、中心市街地活性化事業や大曲通町地区市街地再開発事業によるまちづくり、商店街活性化支援を行うとともに、併せて特産品やイベント等地域資源を活かした各地区活性化事業の支援などを行い、賑わいと活力あるまちづくりによる地域経済発展を目指している。

### (4) 大仙市商工会基本方針（平成25年度）

大仙市商工会では、多様化・複雑化する経営課題に対応し「頑張る企業・事業者の育成」として経営マネジメント力向上支援や経営リスクへの対応支援、創業・事業化支援、企業の情報化の推進に努めていくとともに、地域発展のため、行政等関係機関との連携を密にしながら、地域内の消費拡大を目指す取り組みや国民文化祭等の開催に向けた取り組み、ご当地グルメの開発や農商工連携による地域農産品の高付加価値化など、観光振興と物産振興の両面から諸事業を展開し「元気のある地域づくり」を推進することとしている。

## 4. 課題の整理

現状や市民ニーズ、これまでの取り組みに対する評価、上位計画・関連計画などから、課題を次のとおり整理する。

### 1 地域発展の源泉となる「日本の花火」の持続的発展が必要

- 花火は、観る人に感動と夢を与える我が国が世界に誇る芸術であり、大切な伝統文化のひとつとなっている。
- 花火は、祭りやイベントなどを通じ全国各地で打ち上げられており、広く国民に親しまれ、様々な形で我々に恩恵をもたらしている。
- 本市においても、毎年開催される全国花火競技大会「大曲の花火」によって大きな恩恵を受けている。
- とりわけその経済波及効果は大きく、飲食や宿泊、交通、商業、農業、建設など幅広い産業分野にわたっており、また、その効果は本市のみならず、秋田県、東北まで広く及んでいる。
- いまや花火は地域経済振興の源泉のひとつとして欠かせない要素となっており、その発展は今後の地域の発展にとって重要な意味を持つことから、「日本の花火」の持続的発展を課題として位置付けることとする。

### 2 地域経済を浮揚させ、地域間競争を生き抜く、特色ある強い産業づくりが必要

- 地域経済や雇用情勢は、一部で回復の兆しが現れてきているものの、総じて厳しい状況にある。
- 本地域では人口減少と少子化の進行、進学・就職を背景にした若者の地域外流出などが続いている。
- 毎年実施する「市民による市政評価」において、就業支援や産業創出・支援、産業振興に関する施策の強化が喫緊の課題であるとの結果が出ている。
- 近年、本市における観光入込客数は減少傾向が続いており、地域経済低迷の一因となっている。
- 全国的な人口減少により経済規模の縮小が見込まれる中、地域間競争が今後益々進展することが懸念されている。
- こうした状況を踏まえ、地域経済を浮揚させ、地域間競争を生き抜くための「特色ある強い産業づくり」を課題として位置付けることとする。

## 第2章 基本的な方針

### 1. 基本コンセプト及び基本方針

こうした課題を解決するひとつの『解』として、新たな概念に基づいた『花火産業』の創出・確立を目指すこととし、基本コンセプトと基本方針を定め、所要の施策・事業の推進に取り組んでいくこととする。

#### ◆ 花火産業の定義

本構想における『花火産業』については、本市のシティ・アイデンティティのひとつである「大曲の花火」を核に、花火製造といった工業分野をはじめ観光分野、商業分野、農業分野などの産業分野に加え、文化や教育といった要素を有機的・複合的に組み合わせることで相乗効果を生む新たな概念の産業と定義する。

$$\text{『花火産業』} = \text{『大曲の花火』} \times \text{工業} \times \text{観光} \times \text{商業} \times \text{農業} \times \text{文化} \times \text{教育} \times \text{発信・PR}$$

#### ◆ 基本コンセプト

**『日本の花火』の持続的発展 と 地域経済の活性化**

基本コンセプトは、花火が地域の発展に大きな役割を果たしていること、また、本市において経済の振興が大命題であることを念頭に、本構想により市民が将来に希望を持って暮らせる元気で活力ある地域づくりが一層推進されるとともに、「大曲の花火」を支えていただいている花火師をはじめ花火に関係するすべての方々に感謝し、「大曲の花火」の隆盛と共に歩む本市がさらなる高みを目指すための次なる一手として、今後本市が担うべき役割、果たすべき責務を明確にすることにより、全国の花火師の活躍、そして『日本の花火』の持続的発展に寄与できればとの思いから定めるものである。





## ◆ 基本方針

基本方針を前述の課題や基本コンセプト等を踏まえ、次のとおり設定する。

また、本構想の推進を図っていく上で「大曲の花火」が根本を成すものであることから、その持続的発展にも取り組んでいくものとする。

### 1 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進

日本の伝統的文化である「花火」は、本市を含め我が国の経済社会発展に様々な形で恩恵をもたらしており、その持続的な発展は、今後の地域の発展にとって重要な意味を持つものと考えている。これを踏まえ、「日本の花火」の持続的発展に向けた方策のひとつとして、花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進を図ることとする。

### 2 花火の振興を支える人・環境づくりの推進

花火の発展には技術的・科学的な研究・開発が行える場の創出や花火師がスキルアップできる環境づくりが必要であること、安全・環境対策に対応できる優れた人材の確保が課題となっていること、花火に関する教育機関等が少なく、将来的に花火製造・打上に不可欠な人材不足が懸念されることなどを踏まえ、「日本の花火」の持続的発展に向けた方策のひとつとして、花火の振興を支える人・環境づくりの推進を図ることとする。

### 3 本市の強み・特色である「花火」を活かした内発型産業の育成

日本最高峰の花火競技大会「大曲の花火」が本市のシティ・アイデンティティとなっていること、本市が日本屈指の技術を誇る花火産出地のひとつとなっていること、安全性の高い国内産花火玉の需要が高まっていることなどを踏まえ、地域経済の浮揚、地域間競争を生き抜くための特色ある強い産業づくりに向けた方策のひとつとして、本市の強み・特色である「花火」を活かした内発型産業の育成を図ることとする。

### 4 「大曲の花火」ブランドの戦略的活用

「大曲の花火」は、飲食、宿泊、卸・小売、交通等、様々な経済波及効果をもたらすことに加え、本市の県内外へのPRやイメージアップなどに大きく貢献しているが、そのブランド力が様々な産業分野へ付加価値として波及するまでには至っていないことから、地域経済の浮揚、地域間競争を生き抜くための特色ある強い産業づくりに向けた方策のひとつとして、観光、商業、農業等様々な分野において、「大曲の花火」ブランドの戦略的活用を図ることとする。

## 2. 目標及び構想期間

### ◆目 標

現状や課題、基本コンセプト、基本方針等を踏まえた目標を設定し、本構想に位置付けた施策・事業の推進により、期間内においてその達成を実現するものとする。

本構想は、基本コンセプトに掲げるとおり「日本の花火」の持続的発展と大命題である地域経済の活性化を目指しているが、その実現には中長期的な取り組みが必要であることを踏まえ、第Ⅰ期目となる今般の構想では目標をそこに至るまでのひとつの“標”として次のとおり設定するものとする。

#### ■ 目標1 花火文化に対する理解の深耕拡大と

##### 花火に関する人材育成環境の構築を目指す

日本の花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策を推進するとともに、花火の振興を支える人・環境づくりを行うことにより、花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築を目指すものとする。

#### ■ 目標2 花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加を目指す

本市の強みであり特色である「花火」を活かした内発型産業の育成に資する取り組みを推進するとともに、「大曲の花火」ブランドを観光・商業・農業等様々な分野において戦略的に活用することにより、地域の経済活力の向上と交流人口の増加を目指すものとする。

### ◆構想期間

**構想期間（第Ⅰ期） 平成26年4月 ～ 平成31年3月 （5カ年）**

第Ⅰ期目となる構想期間は上記5カ年とする。

ただし、前述のとおり本構想は中長期的な取り組みが必要であることから、第Ⅰ期構想の総合的なフォローアップを平成30年度内に行い、評価に基づいた所要の見直しを図りながら、平成31年度を始期とする第Ⅱ期花火産業構想を策定するものとする。

## 第3章 想定される施策・事業

基本方針や目標等を踏まえ、想定される施策・事業を次のとおり例示する。今後、関係団体等との検討を進め、その実現に向けて取り組むこととする。

施策の推進にあたっては、例示した内容に囚われず、その時々状況や取り巻く環境等を踏まえた最適な事業内容で実施するとともに、適宜所要の追加・見直しを行い、目標達成を目指すこととする。

### 施策 1 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり

#### 1. 施策の必要性

(現状・課題)

- 「大曲の花火」は格式・伝統・来場者数を含め日本最高峰の花火競技大会
- 「大曲の花火」の知名度は全国的にも高く、本市では「花火のまち大仙」を標榜
- 花火に関する展示・見学施設等を求める声が多く寄せられている状況
- 市花火伝統文化継承事業による資料収集が進捗、保存場所が手狭になり、収集資料を適切に保存する施設が必要
- 花火文化を研究する機関や花火を知り・学ぶ施設が全国的に少数

(必要性)

本市が民間団体と協働で展開する花火伝統文化継承事業において、収集した資料が5,000点を超え現在の保存場所では手狭になっていること、全国的に見て花火の研究機関や花火を知り・学ぶ施設が不足していることなどから、**花火のまちを標榜する本市の責務として、花火の文化的価値を高め、継承し、広く示すための拠点づくりが必要となっている。**

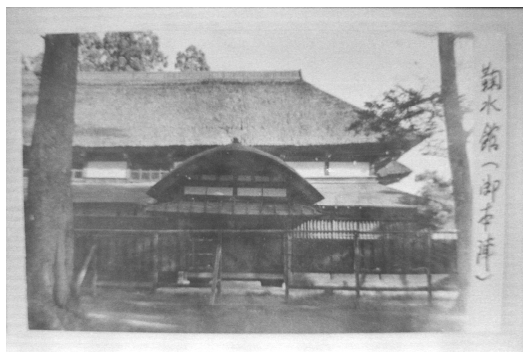
#### 2. 想定される事業

花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくりとして、(仮称)花火伝統文化継承資料館の整備と、それにあわせた花火資料の企画展示を行う(仮称)花火文化資料展示事業のほか、「花火のまち」のイメージを高める花火サインの設置などを想定する。

(仮称)花火伝統文化継承資料館については、前述のとおり、花火伝統文化継承事業が進捗し、既存の保存施設が手狭になってきていること、収集した花火資料について研究を深め、花火の文化的価値を高めるための環境の整備が必要であることを踏まえたもので、花火伝統文化の研究・継承に資する施設を想定している。

整備については、大仙市産業展示館に隣接し、建て替えが必要となっている生涯学習施設(現・勤労青少年ホーム、女性センター)の改築とあわせた複合型施設としての整備を検討している。

隣接する大仙市産業展示館は、佐竹家本陣「鞠水館（きくすいかん）」を再建したもので、歴史上、「大曲の花火」を含む地域文化の発祥・発展に深く関わりのあった地域のシンボリック施設である。舟運の集散地として栄えたこの地域には商人・地主・文化人が居を構え、様々な機会にこの鞠水館が利用され、また、それにあわせて花火の打上も行われていたとされている。明治27年の



明治天皇大婚25年祝典がこの鞠水館で催された際にも絢爛な花火が盛大に打ち上げられ、また、明治42年に秋田県知事が本県を全国に広くPRしようと大手新聞社の一団と文人を大曲に招いた際にも、鞠水館を起点に豪華な花火の打上とあわせた丸子川・雄物川の船下りが執り行われるなど、鞠水館と花火は深い結びつきを有していた。

「大曲の花火」はこうした盛んな花火の打上を背景として生まれたものであり、この地域にある諏訪神社の祭典の余興として開催されたのが始まりである。この「大曲の花火」発祥の地とも言える地域に当該施設を整備し、縁深い鞠水館・大仙市産業展示館と一体的に活用していくことは歴史的にも大変意義深く、当該資料館を整備する上でまさに適地と考えている。

近くには地域発展のルーツとなった雄物川・丸子川、そして、歴史文献「月の出羽路（菅江真澄著）」において花火や眠り流しの灯籠群とともに描かれ、また、かつてドイツの著名な建築家ブルーノ・タウトが絶賛した橋上からの眺望を今に伝える丸子橋、歴史と風情を感じさせる老舗料亭などがあり、大曲の花火発祥の諏訪神社とあわせ、新たな文化・歴史的観光エリアのひとつになることが期待される。



また、JR大曲駅から観覧会場までの導線内にあること、幹線道路からのアクセスも容易であることから、「大曲の花火」開催日あるいはその前後の期間はもちろんのこと、年間を通じても多くの方から訪れていただけるものと考えており、まちなかの賑わい創出、商店街の振興にもつながり、持続可能なまちづくりを進める上で課題となっている中心市街地の活性化にも資するものと考えている。

さらに、大仙市産業展示館が隣接することで、収集した花火資料の効果的かつ効率的な展示が可能となり、産業展示館自体の設置目的により適った機能充実が図られるとともに、生涯学習施設との複合施設とすることで、当該生涯学習施設を利用する多くの市民の方々からも花火文化をより深く理解していただく機会の創出にもつながるものと考えている。

さらに、大仙市産業展示館が隣接することで、収集した花火資料の効果的かつ効率的な展示が可能となり、産業展示館自体の設置目的により適った機能充実が図られるとともに、生涯学習施設との複合施設とすることで、当該生涯学習施設を利用する多くの市民の方々からも花火文化をより深く理解していただく機会の創出にもつながるものと考えている。

このほか、コミュニティFM・スマートフォンを活用し花火情報等を地域に発信する（仮称）花火地域情報発信事業やまちなかに花火モニュメント・花火サインを設置する（仮称）まちなか花火デザイン導入事業、大曲通町地区第一種市街地再開発事業で整備する南街区建築物壁面や施設等を活用し花火映像の映写を行う（仮称）まちなか花火シアター事業など、「大曲の花火」のブランド力を高め、「花火のまち大仙」の印象をより深める事業の展開を検討する。

[大仙市産業展示館]

大仙市産業展示館は、佐竹家本陣「鞠水館」を平成3年に旧大曲市が産業展示館として再建した施設。平成14年のリニューアル後は、文教施設として作品展や講座会場として利用されている。「鞠水館」は、藩政時代「本陣」とよばれ、秋田藩主佐竹侯が参勤交代の途次、専用の宿泊所として利用した建物で、華美ではないものの堂々たる総茅葺の建物だったと伝えられている。

[想定事業一覧]

事業名称	実施主体等	実施内容	実施時期
(仮称)花火伝統文化継承資料館整備事業	大仙市	花火伝統文化の研究・継承に資する施設として、既存生涯学習施設の改築と組み合わせた（仮称）花火伝統文化継承資料館の整備を想定。隣接する大仙市産業展示館での効果的な花火資料展示とあわせ、花火文化の価値向上を図り、後世に継承していく拠点施設とする。	平成26年度～ [新規] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)
(仮称)花火文化資料展示事業(大仙市産業展示館等での企画展示)	大仙市、大仙市花火伝統文化継承プロジェクト	花火伝統文化の研究・継承に資する施設として整備する（仮称）花火伝統文化継承資料館で保存する花火資料を隣接する大仙市産業展示館や花火通り商店街にある花火庵において企画展示を行う。	平成29年度～ [新規] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)
(仮称)花火地域情報発信事業	大仙市、TMO 大曲 等	コミュニティFMやスマートフォン等を活用し、花火の打ち上げ情報をはじめ各種イベントや行祭事等、花火のまちならではの地域情報を発信する。	平成28年度～ [新規] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)
(仮称)まちなか花火デザイン導入事業	大仙市、民間事業者 等	花火通り商店街や大曲通町地区第一種市街地再開発事業で整備される広場等への花火モニュメント・花火サインの設置、花火をモチーフにした道路等附属施設の整備、花火イルミネーションの設置など「花火のまち大仙」を印象づける取り組みを行う。	平成28年度～ [新規] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)

(仮称) まちなか花火シアター事業	大仙市	大曲通町地区第一種市街地再開発事業で整備する南街区建築物壁面や施設等を活用した花火映像の映写など「花火のまち大仙」を印象づける取り組みを行う。	平成 28 年度～ [新規] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)
大仙市花火伝統文化継承事業	大仙市、大仙市花火伝統文化継承プロジェクト	花火を日本の伝統文化と捉え、花火に関する資料の収集・保存を行い、将来にわたる貴重な文化的財産として後世に確実に継承していく取り組みを行う。	平成 20 年度～ [継続] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)
花火庵運営事業(中心市街地にぎわい創出事業)	大仙市、TMO 大曲、NPO 法人大曲花火倶楽部、大仙市観光物産協会、のびのびらんど	花火通り商店街にある空き店舗を活用したにぎわい創出施設「花火庵」を開設、NPO 法人大曲花火倶楽部による花火展示スペース「花火屋」をはじめ、観光物産協会事務局、ボランティアグループのびのびらんどの活動スペース等、様々な機能を有する複合施設としてまちなかのにぎわいの創出と花火展示を通じた花火文化の情報発信を行う。	平成 17 年度～ [継続] (秋田県市町村未来づくり協働プログラムによる取り組みを想定)

### 3. 施策・事業の推進にあたっての留意点

- 施設整備に係る財源確保
- 秋田県、関係機関・団体との合意形成
- 資料収集・保管方法の見直し
- 花火資料の効果的展示方法の検討
- 将来的な資料保存場所の確保（アーカイブス化の検討）



## 1. 施策の必要性

(現状・課題)

- 「大曲の花火」は格式・伝統・来場者数を含め日本最高峰の花火競技大会
- 「大曲の花火」の知名度は全国的にも高く、本市では「花火のまち大仙」を標榜
- 地域発展の源泉として花火は欠かせない要素
- 安全・環境対策に対応できる優れた人材の確保が課題
- 将来的に花火に必要な人材が不足する懸念
- 全国的に見て花火に関する教育機関が少数
- 花火の発展には技術的・科学的な研究・開発が行える場の創出や花火師がスキルアップできる環境づくりが必要

(必要性)

事故等への安全対策や環境問題への適切な対処などについて益々要求が高まっており、これに対応できる優れた技術や知識を有した人材の継続的な確保が求められていること、一部では後継者不足が顕在化しつつあり、その確保・育成が課題のひとつとなっていること、花火に関する教育機関が全国的に見て少数であり、将来的に花火製造に不可欠な人材の不足が懸念されること、花火を発展させていく上で人材の育成と不断の研究・開発が重要であることなどから、**花火を支える人材育成・研究開発の場の創出が必要となっている。**

## 2. 想定される事業

花火を支える人材育成・研究開発の場の創出として、秋田県をはじめとした関係機関等からの協力を得ながら既存専門校等への講座新設を行う（仮称）花火に関する人材育成事業や当該講座履修者の花火会社への就職支援等を行う（仮称）花火師確保支援事業、産学官連携による花火の共同研究・開発を行う場の創出などに取り組む（仮称）花火の共同研究・開発事業などを想定する。

（仮称）花火に関する人材育成事業については、近年益々高まっている安全・環境対策等へ適切に対応できる優れた技術や知識を有した人材の継続的な確保が求められていることに加え、花火づくりや打上に必要な人材の育成に資する教育機関が少なく、将来的に必要な人材の確保が困難となり、地域経済に大きな恩恵をもたらす「大曲の花火」を含めた「日本の花火」の持続的発展に陰りがでるのではないかとの懸念から検討するものである。

当該講座等については、花火製造・打ち上げに関する知識や技術の習得、花火製造・取扱に係る資格の取得支援を行うほか、現職花火師の研修の場としての活用について検討を進めることとする。

また、（仮称）花火師確保支援事業として、当該講座履修者が花火会社等へ就職できるよう所要の支援策を講ずるとともに、花火そのものの発展には、不断の研究・開発

によるイノベーション（技術革新）が必要不可欠であることを踏まえ、将来的には花火の魅力・特色をさらに引き上げる産学官連携による研究・開発の場の創出として（仮称）花火の共同研究・開発事業についても検討を進める。

[想定事業一覧]

事業名称	実施主体等	実施内容	実施時期
（仮称）花火に関する人材育成事業	秋田県、専門校等、大仙市 等	既存専門校等へ花火製造・打上に関する知識や技術の習得、花火製造・取扱に係る資格の取得支援を行う花火講座の設置を要請するとともに、現職花火師の研修の場としての活用についても検討する。 加えて、将来的には花火学科設置の可能性についても検討する。	平成 28 年度～ [新規]
（仮称）花火師確保支援事業	大仙市、専門校等、花火会社等	花火会社と講座履修者との就職マッチング支援を実施する。	平成 28 年度～ [新規]
（仮称）花火の共同研究・開発事業	花火会社、専門校等、大仙市 等	花火の魅力・特色をさらに引き上げるための産学官連携による共同研究・開発の場の創出を図る。	平成 30 年度～ [新規]

**3. 施策・事業の推進にあたっての留意点**

- 講座内容、取得資格の検討
- 講座設置手法の検討
- 講座設置が望まれる既存専門校等の選定
- 選定既存専門校等への講座設置要請、許認可機関への申請
- 花火に関する共同研究・開発に向けた実施手法の検討
- 講座履修者と花火会社との就職マッチング手法の検討



## 1. 施策の必要性

(現状・課題)

- 依然として厳しい地域経済・雇用情勢
- 人口減少と少子化の進行、若者の地域外流出
- 市民評価では就業支援、産業創出・支援、産業振興が喫緊の課題
- 「大曲の花火」は格式・伝統・来場者数を含め日本最高峰の花火競技大会
- 「大曲の花火」の知名度は全国的にも高く、本市では「花火のまち大仙」を標榜
- 地域内に花火会社が集積し、日本屈指の技術を誇る花火玉の産出地
- 国内産花火玉の供給が慢性的に不足、海外製品に依存している状況
- 各地の花火大会事故等を受け、安全な花火大会運営に資する国内産花火玉への需要が高まっている状況
- 地域経済を浮揚させ、地域間競争を生き抜くための内発型産業の創出が必要
- 「大曲の花火」ブランドを活かした新たな概念の産業創出が必要
- 日本屈指の花火玉産出地として国内需要に応じた製造販売体制の確立が必要

(必要性)

依然として厳しい地域経済・雇用情勢や人口減少・少子化の進行、市民評価の結果などに加え、本市は花火業者が多く集積し、日本屈指の技術を誇る花火玉の産出地となっていること、国内でより安全性が高く高品質な国内産花火玉の需要が高まっている状況にあることなどを踏まえ、本市の強み・特色である「花火」を活かした内発型産業の育成として、**日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくりが必要となっている。**

## 2. 想定される事業

日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくりとして、需要が高い汎用花火玉を製造する花火工場の建設やその花火工場を運営する法人の設立、市内の花火師と連携した取り組みとして、全国各地で開催されている花火大会やイベント等において、花火の打上をサポートする事業の展開などを想定する。

新たに建設される花火工場は様々なメリットが考えられており、花火玉の県内外との取引により、地域経済の浮揚や新規雇用の発生が見込まれるほか、汎用性のある花火玉を新花火工場で製造し花火業者に供給することで、花火業者は自社固有の技術を駆使した花火のさらなる追求や創造性に富んだ新しい花火の研究・開発に注力することができるようになり、「大曲の花火」ひいては「日本の花火」のさらなる飛躍にもつながるものと期待している。

新工場で製造する花火玉については、地元花火業者だけではなく、全国への出荷を目指しているが、グローバルな視点から、メイドイン大仙・メイドイン秋田を掲げ、将来的には海外への販売も視野に入れながら事業展開を図ることとする。なお、花火製造に

あたっては、地域経済活性化の観点から、地元調達が可能で原材料がある際はできるだけその活用に努めるとともに、当該原材料について地域内消費以上の供給が可能な場合には、他地域への供給についても検討するものとする。また、花火製造が軌道に乗り、生産規模の拡大による新たな従業員の確保が必要となった際には、火薬類取締法等関係法令を踏まえつつ、障がい者雇用の可能性についても検討することとする。

さらには、花火玉をつくるだけでなく、打上の技術を強みとして捉え、「大曲の花火」ブランドを全面に出す形で、全国各地で開催されている花火大会やイベント等において、花火の打上をサポートする事業の展開についても検討を進めるとともに、将来的には海外での花火大会のプロモート等も視野に入れることとする。

[想定事業一覧]

事業名称	実施主体等	実施内容	実施時期
花火工場運営会社設立事業	大曲商工会議所、大仙市商工会等	花火工場を運営する新たな法人を設立する。大曲商工会議所、大仙市商工会を中心に広く出資を募り、地元花火会社からの技術的支援・協力を得ながらの運営を想定している。	平成26年度～ [新規]
(仮称) 花火産業創出支援事業	大仙市	本市の強み・特色である「花火」を活かした内発型産業の育成に向けた取り組みとして行われる新たな花火生産拠点づくりに対し所要の支援措置を講ずる。	平成26年度～ [新規]
(仮称) 大曲花火生産拠点整備事業	花火工場運営会社	新たに設立する花火工場運営会社が主体となり花火製造工場を建設する。需要が高い汎用花火の製造を中心に、地元花火会社だけでなく広く全国への販売展開を想定している。将来的にはグローバルな視点から海外への事業展開も検討する。	平成28年度～ [新規]
(仮称) 花火打上サポート事業	花火工場運営会社	地元花火師と連携した取り組みとして、各地で開催される花火大会の企画・花火打上等をサポートする事業を検討する。将来的にはグローバルな視点から海外への事業展開、プロモート等も検討する。	平成28年度～ [新規]

**3. 施策・事業の推進にあたっての留意点**

- 花火工場建設用地の選定
- 花火工場建設に際しての地元住民との合意形成
- 花火工場建設に係る財源確保
- 地元花火会社の関与による徹底した技術の集約・結集

## 1. 施策の必要性

(現状・課題)

- 依然として厳しい地域経済・雇用情勢
- 人口減少と少子化、若者の地域外流出
- 市民評価では就業支援、産業創出・支援、産業振興が喫緊の課題
- 「大曲の花火」は格式・伝統・来場者数を含め日本最高峰の花火競技大会
- 「大曲の花火」の知名度は全国的にも高く、本市では「花火のまち大仙」を標榜
- 花火に関する展示・見学施設等を求める声が多く寄せられている状況
- 花火のブランド力が観光・商業・農業等の産業に波及していない状況
- 人口減少の進行により消費縮小が見込まれる中、地域間競争が益々進む懸念
- 地域間競争を生き抜くための都市としての個性や魅力づくりが必要
- 地域間競争を生き抜く強い産業を育成するため、有機的な産業間連携による新たな取り組みが必要
- その具体策のひとつとして「大曲の花火」ブランドを全面に打ち出し、観光・商業・農業など本市産業の振興に波及する取り組みがこれまで以上に必要
- 大曲の花火人気を背景に、訪れる多くの観光客から寄せられる花火関連施設整備に対する高いニーズに対応した展示・見学施設などの設置が必要

(必要性)

依然として厳しい地域経済・雇用情勢や人口減少・少子化の進行、市民評価の結果などに加え、大曲の花火の人気・知名度が高いこと、今後地域間競争を生き抜く特色ある強い産業の育成が益々重要となることなどから、**「大曲の花火」のブランド力を最大限活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充が必要となっている。**

## 2. 想定される事業

花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充として、新たに建設する花火工場周辺を一体的観光エリアとする（仮称）花火パーク整備事業や、「大曲の花火」のブランド力を活かした観光・商業・農業の振興方策である（仮称）戦略的花火ブランド活用事業のほか、国際花火シンポジウムなどの世界・全国規模の花火関連会議の誘致を行う（仮称）花火関連会議等誘致推進事業などを想定する。

（仮称）花火パーク整備事業については、花火関連施設の見学や花火玉づくりの模擬体験、またその模擬体験でつくった花火玉を花火師が再現し打ち上げるといった新たな取り組み、依頼主の様々な思いを込めて打ち上げるプライベート花火の打ち上げなどの企画を想定している。これにより見学だけでなく宿泊を前提とした新たな観光ビジネスプランの開発が可能になり、新たな観光ルートづくりも含め、本市観光振興における大きな課題である通年・滞在型観光の実現に向け、ひとつの有効な取り組みになるものと期待している。

（仮称）戦略的花火ブランド活用事業については、市内各地域で開催される花火大

会等と「大曲の花火」との一体的PRや花火を核とした新たな観光ルートづくり・通年観光商品の開発のほか、大仙市観光物産協会や農業団体等との連携による花火ブランドを活用した商品・特産品の開発・販売促進などを想定している。

市内各地域で開催される花火大会等と「大曲の花火」との一体的PRや花火を核とした新たな観光ルートづくり・通年観光商品の開発については、「大曲の花火」以外にも、神岡南外花火大会や新作花火コレクション、協和七夕花火をはじめ、各地域で小規模ながら質の高い花火大会等が開催されていることを踏まえ、当該花火大会等のレベルアップを図りながら「大曲の花火」との連携による積極的なPRに努めるとともに、これらの花火を核とした新たな観光ルートづくりや通年観光商品などを検討し、交流人口の拡大とこれに伴う大仙市全体の活性化の実現を図るものとする。

花火ブランドを活用した商品・特産品の開発・販売促進については、これまでも様々な取り組みが行われてきたところであるが、分野や実施主体が異なるなどの理由から、全市統一的な取り組みが難しく、個々の成功例はあっても、他の取り組みへの波及はほとんどなかったという現状がある。今後において、地域間競争は益々進展するものと思われることから、大仙市観光物産協会や農業団体等など、産業分野や事業主体などの枠組みを越え、全国的に浸透している「大曲の花火」というブランドが持つポテンシャルを最大限引き出し、付加価値として活用する新たな概念の取り組みを推進することとする。この取り組みにあたっては広く積極的に「大曲の花火」という商標等を用いることとし、当該商標活用による「大曲の花火」自体の一層の浸透も相乗効果として得るものとする。

また、新設花火工場による全国への花火玉の販売にあわせ、全国各地に本市の産品をPR・販売するような取り組みも行い、いずれは海外進出も視野に入れた事業展開についても検討を進めることとする。

(仮称)花火関連会議等誘致推進事業については、「国際花火シンポジウム」などの世界規模の会議、あるいは全国規模の会議を本市に誘致し、花火のまち大仙市を全国に認知していただくとともに、会議等の誘致により交流人口を増加させ、宿泊業や商業、飲食業など市内経済に好影響を与えるような取り組みを進める。特に、「国際花火シンポジウム」については、世界各国から花火関係者が集まることから、経済効果はもちろん、「大曲の花火」そして大仙市を世界に知っていただく絶好の機会であることから、その誘致に努めるものとする。

[想定事業一覧]

事業名称	実施主体等	実施内容	実施時期
(仮称) 花火パーク整備事業	大曲商工会議所、大仙市商工会、大仙市、花火工場運営会社 等	新たに建設される花火工場周辺エリアを(仮称)花火パークとして一体的に捉え、花火関連施設見学や花火玉づくりの模擬体験、プライベート花火の打上などを行う通年型花火観光エリアを整備する。	平成 28 年度～ [新規]

(仮称) 戦略的花火ブランド活用事業	大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会、大仙市観光物産協会 等	【観光】 (仮称) 花火伝統文化継承資料館を含む新たな観光ルートづくりや各地域の花火大会等との一体的なPR強化、花火関連施設と花火関連イベントを組み合わせた通年観光商品の開発等を行う。	平成 27 年度～ [新規]
	大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会、大仙市観光物産協会、農業団体 等	【商業】 大仙市観光物産協会との連携による花火ブランド活用商品の開発・PR、花火玉の販売とあわせた全国への花火関連商品の戦略的販売等を行う。	平成 27 年度～ [新規]
	大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会、大仙市観光物産協会、農業団体 等	【農業】 地域農業団体等との連携による花火ブランドを活用した販売戦略の展開、大仙市観光物産協会との連携による特産品の開発・PR、花火玉の販売とあわせた全国への農産物の戦略的販売等を行う。	平成 27 年度～ [新規]
(仮称) 花火関連会議等誘致推進事業	大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会、大仙市観光物産協会 等	「国際花火シンポジウム」をはじめとした世界的・全国的規模の花火関連会議の誘致推進活動を展開するとともに、受入体制の構築を図る。	平成 26 年度～ [新規]
大曲の花火ウィーク開催事業 (だいせん「花火」と「食」のおもてなし事業)	大曲商工会議所 (大曲の花火ウィーク実行委員会)	豊富な地域資源を活かしたイベント「大曲の花火ウィーク」を開催する。「大曲の花火」一週間前から花火や食、音楽をテーマにした創意工夫に富んだ各種イベントを実施し、地域の活性化を図る。	平成 23 年度～ [継続]
市内各花火大会の支援等	大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会 等	神岡南外花火大会や新作花火コレクション、協和七夕花火など、毎月市内各地で開催される特色ある花火大会等の開催を推進・支援する。	— [継続]

### 3. 施策・事業の推進にあたっての留意点

- 花火のブランド力の戦略的活用方策の検討（観光・商業・農業）
- 関係機関・団体等との協働推進体制の確立
- 花火関連会議の受入体制の確立
- 花火工場と周辺の観光施設との両立（規制等の対応）

## 第4章 推進体制

### 1. 構想の策定体制

#### ◆花火産業構想策定プロジェクト会議

本構想は、大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会の3団体により構成される「花火産業構想策定プロジェクト会議」において、オブザーバーとして秋田県（仙北地域振興局）から助言等をいただきながら、「大曲の花火」が持つ様々な可能性を模索しつつ協議を重ね協働により策定を行った。

#### 大仙市

No	役職名	氏名
1	市長	栗林次美
2	副市長	久米正雄
3	副市長	老松博行
4	企画部長	小松英昭
5	農林商工部長	佐々木誠治
6	企画部総合政策課長	相馬幸則
7	農林商工部農林振興課長	今野功成
8	農林商工部商工観光課長	五十嵐秀美
9	農林商工部企業対策課長	小野地洋

#### 大曲商工会議所

No	役職名	氏名
1	会頭	佐々木繁治
2	副会頭	賢木新悦
3	副会頭	小松忠信
4	専務理事	藤原薫
5	事務局長	伊藤浩

#### 大仙市商工会

No	役職名	氏名
1	会長	高貝芳彦
2	副会長	佐藤芳雄
3	副会長	菅原忠芳
4	専務理事	平瀬孝志
5	事務局長	加藤恒盛

#### ◆大仙市花火産業構想策定プロジェクト

市では、花火産業構想策定に際し、市関係部局の積極的かつ主体的な関与が図られるよう、両副市長を筆頭に、2部6名で構成される「花火産業構想策定プロジェクト」と、その下部組織である同作業部会を設置、それぞれの立場から意見を出し合い、議論を重ね、市としての構想の考え方についてとりまとめを行った。

本構想に盛り込まれた施策・事業については、施策あるいは事業ごとに、関係機関

が役割を分担して推進していくこととなるが、その施策・事業は多岐にわたる部署が関係することとなることから、全庁体制で構想の推進に取り組んでいくこととしている。

組 織 名	組 織 構 成
花火産業構想策定プロジェクト委員	両副市長、企画部長、農林商工部長、総合政策課長、商工観光課長、企業対策課長、農林振興課長
花火産業構想策定作業部会員	総合政策課、商工観光課、企業対策課、農林振興課、財政課、秘書課の実務担当職員

[活動経緯]

平成 25 年

12月6日	市	大仙市花火産業構想策定プロジェクト設置(辞令交付)
12月9日	市	花火産業構想策定プロジェクト策定委員会(1)
12月13日	市	花火産業構想策定プロジェクト策定作業部会(以後随時開催)
12月13日	会議所	花火産業に係る会議所プロジェクト会議(1)
12月19日	市	花火産業構想策定プロジェクト策定委員会(2)
12月24日	市	花火産業構想策定プロジェクト策定委員会(3)
12月25日	市	市内花火会社との意見交換会(1)

平成 26 年

1月21日	共同	花火産業構想策定プロジェクト会議に係る関係者事前協議
1月23日	市	企画産業常任委員会所管事務調査
1月24日	市	花火伝統文化継承プロジェクトとの意見交換会
1月27日	市	市内花火会社との意見交換会(2)
1月31日	市	花火産業構想に関する議員説明会(1)
2月10日	共同	第1回 花火産業構想策定プロジェクト会議
2月24日	共同	花火産業構想策定プロジェクト担当者会議 (以降随時開催)
3月3日	共同	花火産業構想策定プロジェクト会議 中間協議
3月14日	市	花火産業構想に関する議員説明会(2)
3月18日	会議所	花火産業に係る会議所プロジェクト会議(2)
3月24日	市	大仙市議会 議員全員協議会
3月28日	共同	第2回 花火産業構想策定プロジェクト会議

共同... 大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会による共同開催

### ◆市内花火業者との意見交換会

大仙市では、本構想の策定にあたり、花火や花火業者を取り巻く状況を把握するために、市内花火業者を対象とした意見交換会を実施した。

実施年月：平成25年12月25日、平成26年1月27日

参加者：市内花火4業者の代表、大仙市長、両副市長、担当部局

花火業者からは次のような意見をいただいた。（抜粋）

- 我が国の花火玉の需給状況については、国内産の供給が不足しており、海外産の花火玉に依存せざるを得ない状況となっている。
- 昨今の花火大会での事故等を受けて、花火大会運営はもとより、花火の打上についてもより一層の安全性の確保が求められるようになってきている。花火玉についてもより安全で高品質な国内産花火玉の需要が高まっており、また、事故等への安全対策や環境問題への適切な対応ができる人材の継続的な確保が求められている。
- 花火に関する教育機関については全国的に見ても数が少なく、花火にとって必要な人材が将来的に不足することが懸念されている。
- 花火産業構想を考える中で中核となるのが花火工場であると思う。
- 花火工場の建設・操業に関しては、成功する可能性はあると思う。また、「大曲の花火」ブランドを全面に出すことで大仙市を全国にアピールできると考える。
- ただし、火薬類取締法などによる規制が非常に厳しく、製造責任者や取扱保安責任者の設置が必要となっている。また、経営者をどうするか、製造者の確保をどうするかなど乗り越えなければならない高いハードルがある。
- 工場建設にあたってはしっかりと計画が必要である。規模や生産量など積算しなければならない。
- 火薬を扱う以上最も優先すべきは安全である。観光と製造は分けて考えるべきである。
- 花火製造にあたっては、市場は何を必要としているのか、海外産花火と競争できるのかななどをよく調査する必要がある。
- 新しい花火工場建設によって既存花火会社にとってメリットが必要である。悪影響を及ぼすものであってはならない。
- 工場建設にあたっては地元の方々からの合意、信頼が必要である。
- 花火文化に接する機会を多くすることは大変良いことと考える。
- 市が中心となって集めた花火資料については、公開し花火文化を広く伝えることが必要である。また、これにより観光振興にもつながっていくものとする。
- 花火に必要な人材育成は結構なことである。専門校等で学ぶスタイルが良いのではないかと考える。



## 2. 構想の推進体制

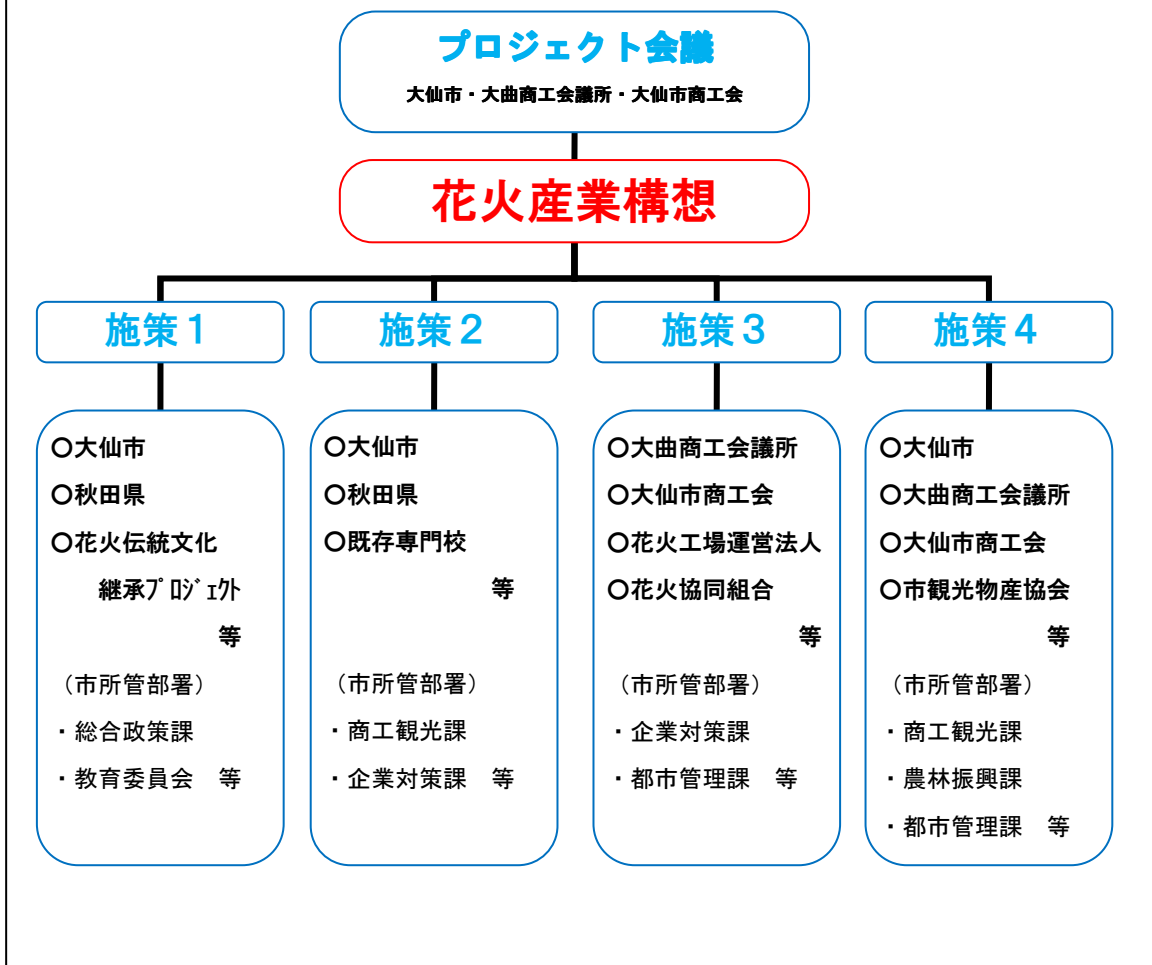
構想推進統括組織として、大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会の3団体からなる「花火産業構想推進プロジェクト会議」を設立し、関係組織・団体との連携のもと、本構想に基づいた所要の施策・事業の進行管理、評価を一体的に行うこととする。

## 3. フォローアップ体制

花火産業構想の推進には、関係機関・団体との緊密な連携体制と構想における施策・事業進行を一元的に管理できる体制の構築が必要であることから、大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会の3団体内にフォローアップ担当者を配置し、事業進捗状況、目標達成状況などを把握、適切な進行管理を行うこととする。

また、総合的なフォローアップについては平成30年度内に行うこととし、評価に基づいた所要の見直しを行いながら、第Ⅱ期花火産業構想を策定し、平成31年度から当該構想に基づいた施策・事業を実施するものとする。

### ◆ 花火産業構想の推進体制図





## < 参 考 资 料 >

## ■ ■ 指標目標について（参考推計）

本構想では、前述のとおり、「花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築」及び「花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加」の2つの定性目標を掲げ、基本方針に基づく施策・事業の推進によりその実現を図っていくこととしている。

この目標の実現にあたり、その達成状況を随時確認し、見直しを図っていく上で、目標の定量化が求められるところではあるが、今般の「構想」はビジョンあるいは将来の見通しを示すものであり、また、個別事業に係る計画が構想策定後において関係団体との検討を重ねた上で策定されることを踏まえ、本構想では定量指標は設定しないこととする。

ただし、今後の個別事業計画を立案していく際の検討材料のひとつとして、現段階で想定しうる目標指標及び目標値を次のとおり参考記載する。

### **目標1** 花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築を目指す

「花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築」に係る現段階での指標目標として、花火資料収集点数、花火関連施設入場者数、花火関連講座受講者数の3点を例示する。

#### **（1）花火資料収集点数 構想期間内に10,000点を目指す**

本市では、市民ボランティアグループとの協働により、「大曲の花火」をはじめとする花火に関する資料の収集・保存を行う「花火伝統文化継承事業」を平成20年度から実施している。本趣旨に賛同していただける団体・個人からのご協力のもと、全国の花火大会の公式プログラムやポスター、花火に関する記録映像や書籍、カレンダーのほか、「大曲の花火」に関する絵コンテや花火会場模型、新聞記事などが集まっており、これまで約5,000点が整理・保存されている。

これらの資料は、将来にわたる花火の貴重な文化的財産となり得るものであり、後世に確実に継承していくことは、「大曲の花火」そして「日本の花火」文化に対する理解の深耕拡大につながるものと考えている。

これを踏まえ、本構想の基本方針に掲げる「花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進」として、本事業による全国への資料提供の呼びかけや花火関係団体の協力要請等を行うとともに、(仮称)花火伝統文化継承資料館整備による適切な資料保存環境・受入体制の構築、加えて、この資料館と隣接する大仙市産業展示館との連携による企画展示にあわせた資料収集PRなどを実施し、構想期間内に収集資料10,000点を目指すこととする。

【目標値・現状値・主な事業】

現 状 値 (H25.12)		5,000 点
↓	○大仙市花火伝統文化継承事業による効果	5,000 点
	○(仮称)花火伝統文化継承資料館整備による効果	
	○(仮称)花火文化資料展示事業による効果	
目 標 値 (H30)		10,000 点

**(2) 花火関連施設入場者数 構想期間内に 4,467 人／年の増加を目指す**

本市における主要な花火関連施設については、花火通り商店街内にある「花火庵」及び大仙市産業展示館の2つの施設がある。花火庵は、花火玉の模型や打上筒などの展示コーナーが常設されており、また、大仙市産業展示館についても、花火の大風やポスター、歴史的資料などが施設の一角に常設展示されており、「大曲の花火」開催当日を中心に花火ファンが訪れるスポットとなっている。

こうした花火関連施設に市内外から多くの方が訪れることは、花火を知り、学び、花火文化に触れる機会の増加につながることから、「大曲の花火」そして「日本の花火」文化に対する理解の深耕拡大につながるものと考えている。

これを踏まえ、本構想の基本方針に掲げる「花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す施策の推進」として、(仮称)花火伝統文化継承資料館整備とあわせ大仙市産業展示館等で企画展示を行う(仮称)花火文化資料展示事業により、構想期間内に施設入場者増加数 4,467 人／年を目指すこととする。

【目標値・現状値・主な事業】

現 状 値 (H24)		23,283 人／年
↓	○(仮称)花火伝統文化継承資料館整備による効果	4,467 人／年
	○(仮称)花火文化資料展示事業による効果	
	○花火伝統文化継承事業による効果	
目 標 値 (H30)		27,750 人／年

【目標値の推計】

- H24 年度の花火関連施設入場者数 23,283 人／年（花火庵 16,465 人／年、大仙市産業展示館 6,818 人／年）
- 花火関連施設において増加する入場者を次のとおり推計する。

【花火庵の入場者数の推計】

H24 年度の花火庵入場者数 16,465 人のうち、「大曲の花火」が開催される 8 月には 6,027 人の入場があった。このことは、花火関連施設として広く認知されていることを示すものであり、本構想に

基づく各種取り組みにより、現状値を上回る入場者数を見込めるものと考えている。しかしながら、ここではより実現性を考慮し、現状の入場者数と同数を見込むこととする。

【産業展示館の入場者数の推計】

H24.8 実施の大仙市産業展示館花火企画展示による1日当たりの入場者数を参考に、当該施設を訪れる人数を推計する。ただし、この企画展示が「大曲の花火」開催日前後に実施したものであり、年を通してこの入場者数が確保できるとは考えにくいことからこのまま用いず、実現性を考慮し、1/2を乗じて得た数を1日当たりの入場者数として設定し、産業展示館の年間入場者数を推計する。

(産業展示館花火企画展示での実績)

- ・企画展示期間 H24. 8. 18～8. 26 のうち 8 日間で 600 人が来場
- ・1日当たりの入場者数  $600 \text{ 人} \div 8 \text{ 日} = 75 \text{ 人/日} \rightarrow 37 \text{ 人/日} \dots \textcircled{1}$
- ・ $\textcircled{1} \times \text{開館日数 } 305 \text{ 日} = 11,285 \text{ 人/年} \dots \textcircled{2}$
- ・入場者増加数  $\textcircled{2} - \text{H24 年度入場者数} = 4,467 \text{ 人/年}$

**(3) 花火関連講座受講者数 構想期間内に 180 人の受講を目指す**

今後の「日本の花火」あるいは「大曲の花火」を発展させていく上で人材の育成と不断の研究・開発が重要であるとの考えのもと、花火を支える人材育成・研究開発の場の創出として、関係機関等からの協力をいただきながら既存専門校への講座等の設置について検討することとしている。

人材育成・研究開発の場の創出は、花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築に資するものであり、本構想の基本方針に掲げる「花火の振興を支える人・環境づくりの推進」として、(仮称)花火に関する人材育成事業等の実施により、構想期間内に花火関連講座受講者 180 人を目指すこととする。

【目標値・現状値・主な事業】

<b>現 状 値 (H24)</b>	0 人
○ (仮称) 花火に関する人材育成事業	延べ 180 人
<b>目 標 値 (H30)</b>	延べ 180 人

[目標値の推計]

- (仮称) 花火に関する人材育成事業により花火関連講座の開設を想定。  
平成 28 年講座開設、1 講座 3 ヶ月・15 人定員、年 4 期開催を想定。  
花火関連講座受講者  $15 \text{ 人} \times 4 \text{ 期} \times 3 \text{ 年} = 180 \text{ 人}$

## 目標2 花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加を目指す


「花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加」に係る現段階での指標目標として、交流人口（年間観光入込客数）とその経済波及効果の2点を例示する。

### (1) 交流人口（年間観光入込客数） 構想期間内に25.2万人の増加を目指す

### (2) 交流人口増加による経済波及効果 構想期間内に2,924百万円の増加を目指す

本構想では、地域経済の活性化を大命題として捉え、その実現を図るために「本市の強み・特色である「花火」を活かした内発型産業の育成」や「観光、商業、農業等様々な分野における「大曲の花火」ブランドの戦略的活用」などの基本方針のもと、新たに花火工場を建設する（仮称）大曲花火生産拠点整備事業や、その花火工場の周辺を一体的観光エリアとする（仮称）花火パーク整備事業、「大曲の花火」のブランド力を活かした観光・商業・農業の振興方策である（仮称）戦略的花火ブランド活用事業のほか、国際花火シンポジウムなどの世界・全国規模の花火関連会議の誘致を行う花火関連会議等誘致推進事業などの実施を想定している。

これにより、直接的あるいは間接的に多くの経済波及効果をもたらし、地域経済の活性化に寄与するものと考えている。しかしながら、これらの取り組みが成果として発現するには中長期的な期間を要すること、また、工場建設を含めた各事業に係る詳細な事業計画が本構想策定後において検討・策定されるものであることを踏まえ、ここでは本構想の推進による現段階の目標として、交流人口（年間観光入込客数）の増加と、それによって得られる経済波及効果の発現を目指すものとする。

【目標値・現状値・主な事業】		交流人口	経済波及効果
現状値（H24）		251.8万人／年	29,217百万円
	○（仮称）大曲花火生産拠点整備事業	25.2万人／年	2,924百万円
	○（仮称）花火パーク整備事業		
	○（仮称）戦略的花火ブランド活用事業		
	○花火関連会議等誘致推進事業		
目標値（H30）		277万人／年	32,141百万円

#### [目標値の推計]

- 交流人口の目標値（H30）は、現状値（H24）の10%増の277万人／年と設定する。
- 経済波及効果は「国土交通省観光庁 旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（平成22年3月）」を参考に、「平成17年秋田県産業連関表（36部門分類・平成25年3月更新）」を用いて、交流人口（観光入込客数）に基づき推計する。
  - ◆推計にあたっては算定に用いる最終需要額を本市来訪者の地域内推計消費額とし、交流人口増加に資するイベントや施設運営等に係る地域内支出を最終需要に含まない簡易的な方法により試算するものとする。

◆本構想に掲げる事業の推進により増加を目指す交流人口（観光入込客数）を25.2万人／年とする。

◆最終需要額は次のとおり算定する。

本構想の推進により増加を目指す交流人口（観光入込客数）	252,000 人／年	①
<b>(1) 増加する宿泊客の推計</b>		
・宿泊客数 = ① × 宿泊率6.0%(H24 大仙市 県内外)	15,120 人／年	②
・県外宿泊客数 = ② × 県外客宿泊率	9,768 人／年	A
・県内宿泊客数 = ② × 県内客宿泊率	5,352 人／年	B
<b>(2) 増加する日帰り客の推計</b>		
・日帰り客数 = ① - ②	236,880 人／年	③
・県外日帰り客数 = ③ × 県外日帰り客率	115,834 人／年	C
・県内日帰り客数 = ③ × 県内日帰り客率	121,046 人／年	D
<b>(3) 増加する需要額（消費額）の推計</b>		
・県外宿泊客 = A × 消費単価（県外宿泊）	425,678,289 円／年	
・県内宿泊客 = B × 消費単価（県内宿泊）	132,896,726 円／年	
・県外日帰り客 = C × 消費単価（県外日帰り）	1,056,061,495 円／年	
・県内日帰り客 = D × 消費単価（県内日帰り）	716,106,243 円／年	
<b>合計</b>	<b>2,330,742,753 円／年</b>	

<パラメータ>		
・宿泊率（県内外）	6.00%	（H24 大仙市）
・県外客宿泊率	64.60%	（H24 秋田県観光統計）
・県内客宿泊率	35.40%	（H24 秋田県観光統計）
・県外日帰り客率	48.90%	（H24 秋田県観光統計）
・県内日帰り客率	51.10%	（H24 秋田県観光統計）
・消費単価（県外宿泊）	43,581 円	（H24 秋田県観光統計）
・消費単価（県内宿泊）	24,829 円	（H24 秋田県観光統計）
・消費単価（県外日帰り）	9,117 円	（H24 秋田県観光統計）
・消費単価（県内日帰り）	5,916 円	（H24 秋田県観光統計）

◆最終需要額の振り分け

国土交通省観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（平成22年3月）」を参考に、産業部門別に最終需要額を振り分けた。

（単位：百万円）

no	産業部門	需要額	no	産業部門	需要額
1	農業	11	19	精密機械	14
2	林業	2	20	その他の製造工業製品	19
3	漁業	14	21	建設	0
4	鉱業	0	22	電力・ガス・熱供給	0
5	飲食物品	180	23	水道・廃棄物処理	0
6	繊維製品	64	24	商業	242
7	パルプ・紙・木製品	4	25	金融・保険	5
8	化学製品	16	26	不動産	40
9	石油・石炭製品	127	27	運輸	720
10	窯業・土石製品	5	28	情報通信	9
11	鉄鋼	0	29	公務	0
12	非鉄金属	0	30	教育・研究	20
13	金属製品	0	31	医療・保健・社会保障・介護	5
14	一般機械	0	32	その他の公共サービス	4
15	電気機械	0	33	対事業所サービス	34
16	情報・通信機器	26	34	対個人サービス	772
17	電子部品	0	35	事務用品	0
18	輸送機械	0	36	分類不明	0
				合計	2,331

◆経済波及効果の推計

「平成17年秋田県産業関連表（36部門分類・平成25年3月更新）」を用いて推計する。

（単位：百万円、人）

	生産誘発額	雇用者所得		従業者数	雇用者数
		粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額		
直接効果	1,874	986	524	222	177
第1次波及効果	685	378	165	77	45
第2次波及効果	365	232	87	31	24
総合効果	2,924	1,596	776	330	246
波及効果倍率（倍）	1.25				

- ※ 波及効果倍率は当初設定の最終需要増加額に対するものとする。
- ※ 生産誘発額、粗付加価値誘発額、雇用者所得誘発額は、端数処理の関係で内訳の計と合計が一致しない場合がある。
- ※ 逆行列係数は、開放経済型を使用する。
- ※ 効果算定に係る最終需要増加額（直接）は県内自給率を用いて算定した。（自給可能分野は実態に即して変更）



大仙市花火産業構想 第Ⅰ期  
平成26年3月

策定 花火産業構想策定プロジェクト会議  
(大仙市・大曲商工会議所・大仙市商工会)

発行 大仙市  
〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町1番1号  
TEL 0187-63-1111 FAX 0187-63-1119  
[www.city.daisen.akita.jp](http://www.city.daisen.akita.jp)



# 大曲の花火